

熟した紅い果実、食べる雌羊。】

柴田 直美

吉高 涼子

井上 沙弥加

柳原 翔子

綾瀬 麻希

菅野 真弓

緞帳は上がっている。箱馬などで型作られている車がセンターにある。車はすぐに分解出来るようになっている。8人乗りのスペース。舞台上には真弓が立っており、腕時計を見たりしている。手にはビニール袋が6枚ほど。その様子は誰かが待ち合わせに遅れているよう。イラついているが、悲しい方が勝っている感じ。立ち位置は車よりも下手側。時々上手の方を見る。ため息をついて下を向く。麻希が急いで上手から入ってくる。

おはよ！

あ、おはよう。

大丈夫?!まだ誰も来てない?!

うん…来てないけど。

良かったあゝ!もう超焦った!

皆遅れてるってラインしたじゃん。

だからって私より遅れる保証なんてないでしょ?

でも遅れるって連絡くれたの麻希が一番だったから。

そうなの?!それならそつって教えてよゝ!

ゴメン。

え、本当に皆来てないの?

麻希

真弓

麻希

真弓

麻希

真弓

麻希

真弓

麻希

真弓

麻希

真弓

来てないって。

麻希、車の周りを見る。人がいない事に再び安心する。

麻希

あ、ゴメンね。

真弓

え？

麻希

遅刻したのに謝ってなかったら。遅れてゴメン。

真弓

それはいいけど…何かあったの？ おはよう」のラインもらった時、充分間に合う時間だったよね。

麻希

それがさ、聞いてよ。もう超怖くてさあ。

真弓

どうしたの。

麻希

準備終わって家出たら玄関に絢翔が居てさ。

真弓

…うん。

麻希

もう気持ち悪いからシカトして駅に向かったんだけど、しつこく追いかけて来るの。

真弓

それで？

麻希

もう一回やり直したい」って大声で叫ぶからすつこい恥ずかしくて。とりあえず話聞いてたら遅くなっちゃった。ホントに最悪。ストーリーだよ、あれ。

真弓

そっか…。絢翔君、まだ麻希の事、好きなんだ…。

麻希

あ、ゴメンね。元カノの前でこんな話…って、元カノは私か！真弓は元、元カノなんだから切り替

えていこーよ。お互い次、次!!

真弓 次って…。絢翔君と寄り戻す気なの？

麻希 えゝ無いよ。何で？

真弓 何でって…。

麻希 付き合って分かる事ってあるじゃん？何か合わないっていうかつまなくて。あゝ、違うなゝ」みたいなの？

真弓 違うってどういう事？それだけの言葉じゃ絢翔君だって納得出来ないと思う。

麻希 ち、ちよつと、真弓なんか恐いよ？今日から楽しい旅行なんだからさ、笑って笑って。

真弓 でも…。

麻希 っていうかさ、何でビニール袋なんか持つてるの？

真弓 …あ、これ？レンタカーが土足禁止らしくて。一応靴置くスペースはあるみたいなんだけど念のためね。

麻希 へー!! 車すつこい格好良いね。結構高かったんじゃない？

真弓 まあね。でも移動が長いからゆったりしたスペースの方がいいでしょ？

麻希 だね。狭いと色々言われそうだもんね。

沙弥加と翔子が入って来る。沙弥加はポッキーを食べている。翔子はスマホでゲームをしている。

沙弥加

おはよー。

麻希

あ、おはよーございます。

真弓

おはようございます。

沙弥加

ゴメンね。遅れちゃって。

麻希

いえ、大丈夫です。

沙弥加

大丈夫って、アンタも遅刻したんでしょ？

麻希

え？

沙弥加

真弓に遅れるってラインしたら、まだ誰も来てないから大丈夫って返って来たけど。

麻希

ちよつと遅れちゃいました。朝から色々あったんです！！

沙弥加

もう色々あったのこっちだよ。翔子ん家行ったら何の準備もしてないんだもん。

麻希

え、何も！！

翔子

全部向こうで買えばいいじゃん。

麻希

キャンプ場ですよ？

翔子

近くにコンビニくらいあるでしょ。充分。

真弓

下着とかどうするんですか。

翔子

五日くらい同じのでいいって。

沙弥加

いやいやいや、おかしいから。

麻希

あの、私まだ使ってないのありますけど。

翔子
じゃ、それで。

沙弥加
こんなんだから、じゃあすぐ出れるかなーって思ったんだけど、いざ出る時になったら充電器がないー！って叫び出してさ。

翔子
あつたし。

沙弥加
あつたし「じゃねえよ。見付かったの一時間後だろーが。アンタまず部屋掃除しろよな。でも充電器って、それこそコンビニで買えばよかったんじゃ。

真弓

真弓のセリフ言い終わりのタイミングで翔子、舌打ち。真弓、ビクツとなる。

沙弥加
あ、大丈夫。今のアンタにじゃないから。ゲームが上手くいなかったんじゃん？しかし、アチー

なー。マジむかつくんですけど。車エアコン入ってんの？

真弓
あ、はい。

沙弥加
よっしゃ。

沙弥加、車に乗ろうとする。真弓、ビニールを用意しようとする。

翔子
大丈夫？

沙弥加
あ？

翔子 直美さんと涼子さん来てないのに先に乗っててなんか言われても知らないよ。

沙弥加 えーマジか。なんか言うかな？

翔子 何が地雷か分からない人達だから。…今の言わないでね。

麻希 大丈夫です。大丈夫です。

沙弥加 このクソ暑い中どんだけ待ちやいいんだよ。

真弓 飲み物買ってきたらどうか！

沙弥加 いや、私トイレ近いからさ。超飲みてーけど。

四人それぞれ車の周りで待機。

翔子、ゲームが上手くないのか、舌打ち。ビクツとする真弓と麻希。沙弥加が気にするなというジェスチャー。麻希が少し上手に移動し、上手奥の方を見る。が、誰か来る様子はないらしい。

沙弥加 しかしアンタも馬鹿だよ。何で五十万が当たったなんて話したの。

翔子 五十万？

沙弥加 いや、そこは喰いついてくんかい。

翔子 何、五十万って。

麻希 あれ？翔子さんあの時居ませんでしたっけ？

翔子 何？

沙弥加 あー、そうだ。アンタ休んでた。声優のなんちゃらが出るライブに行くとか言っ

翔子 ああ、あの日？何かあったの？

沙弥加 この子が言わなくてもいいような報告したわけよ。

麻希 先日、新人歓迎会の時にビンゴやったじゃないですか。

翔子 うん。

麻希 その時真弓が景品として馬券もらったらしくてですね。

翔子 バケン？

沙弥加 競馬、競馬。

翔子 え、当たったの？

真弓 五十万ほど。

翔子 マジで？え、それ皆に話したの？

真弓 はい。

翔子 マジで？え、馬鹿なの？

沙弥加 でしょ？

麻希 そしたら直美さんと涼子さんが“そのお金って共有じゃない？”とか言い出して。

沙弥加 皆でゴールデンウィークに旅行に行こうって話になったんだよね。

翔子 あ、だからお金の話全然出ないんだ。

真弓 まあ、はい。

翔子

良かったー!! 今月ガチャ貧だから幾らかかるのかなーって不安だったんだよねー。本当は行きたくなかったけど付き合わないと怖いじゃん？

沙弥加

ちよ、待つて。何、ガチャ貧つて。

翔子

ガチャやりすぎて貧乏の略。

沙弥加

そんな言葉あんの？

翔子

良かったー。これなら気兼ねなく楽しめる。

沙弥加

いや、気兼ねはいいけど、感謝はしろよ。

翔子

ああ、そうだね。ありがと。

真弓

いえいえ、私も皆で旅行行けるのは楽しいですし。こーいうのはパーツと使っちゃった方がいいんで。

翔子

は!! 全部使うの!!

真弓

そのつもりですけど…。

翔子

五十万あれば何回ガチャ回せるか…。

沙弥加

そういう事言うなつーの。素直に真弓の好意に甘えなさい。

麻希

でも、皆予定が合って良かったですね。一人でも欠けたらつまらないですもんね。

沙弥加

アンタ、ゴールデンウィークに何の予定も入ってない私達の事、馬鹿にしてるでしょ？

麻希

えー、思ってないですよー。何ですかー。

上手から直美と涼子が入って来る。二人はゆっくり歩く。四人の所まで来て静かに挨拶。

直美

おはよー。

四人、急にピリツとして一列に並び、おはようございますと挨拶。ただし、変に軍隊っぽくはないように。あくまでOLの挨拶の範囲。直美と涼子は洋服もメイクもバッチリ。

涼子

もう皆来てるんだ。

沙弥加

はい。

直美

暑かったでしょー？車に乗ってれば良かったのにー。

沙弥加

いえ、皆で直美さんと涼子さんを待とうって。

直美

そっかー。あ、でも今から五日間は先輩とか後輩とか抜きでいこーよ。

麻希

どうしたんですか？

直美

来る時涼子と話してたんだけど、ホラ、折角の旅行なのにそういうので気イ使うと楽しめないじゃない？会社じゃないんだしもっとフレンドリーでいいかなって。

沙弥加

いいですね！何かの番組でもありましたよね。先輩芸人にもタメロでみたいな！！

涼子

いや、タメロはダメでしょ。

一瞬空気が重くなる。

涼子 何、タメ口で話したいの？

沙弥加 いや、そういうわけじゃないんですけど。

涼子 流石にそういう所はちゃんとした方が良くない？

沙弥加 はい。

翔子 すいません。この子すぐ調子乗るんで。

直美 大丈夫だよ。別に怒ってないし。それより暑いからさ、車乗ろ。

麻希、真弓の手からビニール袋を取って、直美と涼子に渡す。

麻希 あ、じゃあこれ使って下さい。

涼子 何これ。

麻希 レンタカーなんですけど土禁なんですよ。靴置く場所あるんですけど、一応念の為にに入れて下さい。

涼子 気が利くじゃん。

麻希 いえいえそんな。

直美 でもスゴい車だね。移動結構あるんでしょう？これならゆっくり出来そう。

真弓 あの、じゃあ、ジャンケンで運転手決めませんか？

直美

（困った子を見るように少し笑いながら）は？

真弓

え、あのジャンケンで…。

直美

涼子、私履脱ぐの時間かかるから先乗っていいよ。

涼子

そう？

涼子、靴を脱いで後部座席へ座る。直美、沙弥加に「ちよつと持ってて」と言つて荷物を持たせて、靴を脱ぐ。ビニールに入れて荷物を受け取り、涼子の後ろへ座る。その間、四人は黙つて見ている。その後、沙弥加と翔子、互いに顔を見合せて、沙弥加は麻希からビニールを勝手に取る。

翔子

ごめん、お願い。

沙弥加

お前こんな時くらいゲームやめろよな。

翔子

ちよ、今いいトコだから待つて。

麻希、翔子の脱いだ靴をビニールに入れて翔子の近くに置く。

翔子

ああ、ありがと。

涼子

ねえ、暑いからドア閉めてくれる？

沙弥加、翔子の前からスライド式のドアを閉める。
麻希、真弓の方を見る。

麻希

あのさ、

真弓

大丈夫、大丈夫。麻希は免許持っていないもんね。

麻希

あ、でもナビの操作とかはするから。

真弓

うん、お願い。

麻希

……真弓さ、五日間耐えられそう？

真弓

え、何で？ 私すごい楽しみだよ。

麻希

そう……ならいいんだけど。

真弓

逆に麻希は？ 耐えられそう？

麻希

んー分かんない。

真弓

またそうやって中途半端な答え。……ま、麻希らしくて安心するけど。

麻希

何それ。

真弓

さて、そろそろ行きますか。

麻希

だね。

真弓、運転席に。麻希、助手席に乗り込む。

真弓

じゃ、移動しますねー。

全員盛り上がる。麻希はシートベルトをして、カーナビを起動させる。

麻希

住所分かるものある？

真弓

これ見て。

真弓、一枚の紙を渡す。麻希、住所を打ち込む。

直美

目的地までどれくらいかかるの？

麻希

ちよつと待って下さい……。えーと…三時間半くらいですね。

涼子

え、どこ？

真弓

山梨です。

涼子

そんなところまで行くの？

沙弥加

運転大丈夫？

真弓

とりあえず安全運転で行きます。じゃ、出ますね。

直美、後ろを見て。

直美

大丈夫。来てない。いいよー。

真弓

あ、ありがとうございます。行きまーす。

真弓、車を発進させる。

翔子

真弓さ、どっかコンビニあったら寄って。

涼子

え、何、トイレ？行つときゃいいのに。

翔子

いや、トイレじゃないんですけど。

沙弥加

ちよ、涼子さん聞いて下さいよ。コイツ下着とか全然用意してなかったんですよ？

涼子

はあ？どうするつもりだったの？

翔子

いや、なんでコンビニで買おうかと思…

沙弥加

嘘ですよ。最初 五日間くらい同じヤツで平気」とか言ってたんですから。

直美

マジで？！だって温泉とか入るんだよ？ねえ真弓ちゃん。

真弓

あ、はい。

直美

行くとこ温泉あるよね？

真弓

はい、あります。

直美

翔子

涼子

翔子

沙弥加

翔子

涼子

翔子

涼子

翔子

直美

真弓

翔子

直美

翔子

直美

翔子

だよ。温泉入って上がったらさ、やっぱりキレイな下着履いてスッキリしたいじゃん。そう思ってたばり買おうかなって。

いや、そもそも思い直す事自体が有り得ないから。部屋とか掃除してる？

大丈夫です。大丈夫です。

大丈夫じゃねーよ。

今そうゆーのいいじゃん。

つかさ、コンビニに下着売ってる？

可愛いのは無いですけど一応売ってます。

そうなんだ。でもサイズとかザックリなんでしょ？

まあ…はい。

下着はちゃんと体に合うのつけたほうがいいよ。まあ今回は五日間くらいだからいいだろうけど。じゃ、真弓ちゃん、悪いけど入りやすいコンビニあったら寄ってくれる。

分かりました。

あざーす！！

出た、あざーす」。

え？

私、その言い方嫌い。何か馬鹿にされてる感じがする。

いやしてないです、してないです。

直美

翔子ちゃんがなくても私がされてるって感じんの。ホラ、私って言葉遣いとかスゴい気にするタイプじゃない？

翔子

すみません。

直美

謝ることはないって。別に怒ってる訳じゃないから。ただそういうのが気になるっただけ。……もうこの感じまんま職場じゃん。楽しもうよ。

翔子

はい、ありがとうございます。

涼子

ねえ、真弓。

真弓

はい。

涼子

私達旅行先について何も聞いてないけど、どんな所なの？

真弓

あ、はい。ペンション一棟丸々貸し出されてまして、温泉とかバーベキューとかテニスコートとか色々使い放題なんですけど…。

沙弥加

ヘースゴい良いじゃん !!

真弓

ありがとございます。で、今回一応ツアーなんですけど。

涼子

え、ツアーなの？6人しか居ないの？

真弓

少数限定なんです。内容がですね…。えーとパンフがありました。

直美

ちよ、いいから前見て運転して !!

涼子

麻希、読んであげなよ。

麻希 あ、はい。

麻希、真弓からパンフを受け取る。

麻希 「ドッキリ企画ツアー」女だけのテラスハウスにサスペンスがコラボ!!」女だけのシェアハウスだが、

ある日家に閉じ込められた!! 犯人は一体誰だ!!……です。

涼子 意味分かんないんだけど。説明して。

真弓 家っていうのがこれから行くペンションなんですけど。そこに6人でシェアハウスとして住んでる

って設定なんです。

涼子 で？

真弓 ある日6人の内の一人が全員を家に閉じ込める事件が発生しまして犯人が誰か当ててるっていう

ゲーム

をするんです。

直美 え、何？ただの旅行じゃないって事？

真弓 まあ、はい。あ、でも基本自由行動なんで大丈夫です。

沙弥加 はあ？自由行動だったって、ある程度はそのイベントに乗っかんないといけないんでしょ？

真弓 ……はい…。

沙弥加 メンドイっつーの。

翔子 マジで？面白そうじゃん。

沙弥加 いや、オメーはこっこの好きか知らないけど、皆はメンドいつて思ってるから。

翔子 だって今回の旅行って真弓のオゴリでしょ？そこは楽しまないとでしょ。…そうですよね？

直美 私としてはどっちの言い分も分かるからアレだけど、真弓ちゃん。

真弓 はい。

直美 企画の内容的には私達6人の中に犯人がいるんでしょう？

真弓 そうですね。

直美 私何も聞いてないし、皆も初めて知ったっぽいし、この流れだと犯人真弓ちゃんしか可能性ないん

だけど大丈夫？

真弓 あ、大丈夫です。犯人の指示とかは後でメール来ますんで。

沙弥加 どういう事？

真弓 イベントはペンションに到着した時からスタートなんですけど、そこで皆さんのケータイにメール

で行動の指示が出されますので、その指示された事は必ずやって下さい。

涼子 自分のしたい行動の中に交ぜるって事？

真弓 そうです、そうです。一通目のメールで犯人は自分が犯人と分かりますので、他の人にバレない

ように行動して下さい。

麻希 確かに面白いかも。

真弓 でしょ？！

沙弥加

んー、でも私はそれでも普通に旅行を楽しみたかったかなー。

麻希

あ、でも沙弥加さん。犯人当てたら「スゴい美味しいもの」が景品として出るらしいですよ！

沙弥加

何、「スゴい美味しいもの」って。

麻希

そこまでは書いてませんけど。

沙弥加

どうせたいした事ないっしょ。大げさに言ってるだけで。

麻希

でも今回のツアー代金一人8万円ですよ。

沙弥加

え、8万?!

麻希

ある程度の予算が景品に回されてもおかしくないですよ。

沙弥加

マジか、やっぱ。え、美味しいものって何だろ。キャビア？フォアグラ？

翔子

カニじゃね、カニ。

沙弥加

カニかー。私しややっぱ肉だね。肉食いたい。

涼子

ちよつと待った。

沙弥加

え、何すか。

涼子

真弓さ、今、メールが来るって言ったよね。

真弓

…はい。

涼子

それって私達のメールアドレスを旅行代理店に伝えたって事？

真弓

いえ、イベント企画の会社です。

涼子

そんな事はどうでもいいんだけどさ、プライベートな情報勝手に渡したって事でしょ？

直美

まあ、聞くイベント会社もどうかと思うけどね。

涼子

個人情報とか大丈夫なの？変なメールとか来るようになったら真弓のせいだからね。

真弓

え…あ…すみません。ちゃんとイベント会社には言っておきます。

沙弥加

そこは大丈夫じゃないですか？今まで変なメール来てなかったのに、急に来るようになったら明らかに原因はこの会社な訳ですから。裁判しても勝てますよ。

涼子

そうじゃなくて、そもそも変なメールが来るようになったらおしまいって事。そういう情報なんて色んな所に出回るの早いんだから。

沙弥加

心配しすぎですよ。っていうかそもそも最近ケータイのメールなんて使わないじゃないですか。何かあったらアドレス変えればいいし。

翔子

景品出るって分かったら急に賛成派かよ。

沙弥加

でも私に推理とか無理だから翔子よろしく。私は一口だけもらえればいいから。数万円分の美味いものでしょ。楽しみ〜。

直美

犯人の人は賞品なし？

麻希

えっと、犯人役はツアー中自分が犯人だってバレなかったら景品がもらえるみたいです。

直美

成程ね…。

麻希

あ、コメント、真弓さ。

真弓

何？

麻希

ブレーキちょっとだけ優しくしてくれる？この揺れはちょっと酔うかも。

沙弥加

あ、やっぱし!! 私もこのままはちょっとヤバメとか思ってた。

麻希

運転してくれてるのにホントゴメンなんだけど。

真弓

ううん。ちよつと意識してみろ。

麻希

ホントごめんね。

真弓

大丈夫、大丈夫。

翔子

いやでもマジでお願い。操作がブレる。

沙弥加

いつまでやってんだよ。

翔子

もうちょい。

涼子

ねえ、それもう取り替えた方が良くない?

直美

あーそうだね。誰かさー、絆創膏持ってない?

麻希

あ、私ありますけど。

沙弥加

ケガですか?

直美

昨日すごい有り得ないトラブルが発覚してさ、

涼子

ああ、部長に呼ばれたね。

直美

私が担当じゃないのに書類整理に役員室まで持ってきて言われて。

涼子

役員室!!

直美

急いで用意してたら紙でスパって。

直美、沙弥加に傷口を見せる。

沙弥加

うっわ、かなりえげつないですね。

翔子

何があつたんですか？

直美

それはちよつと言えないかなー。

麻希、その間カバンから絆創膏を出す。

麻希

どうぞ。

沙弥加が受け取り、直美に渡す。

直美

ありがとー。あ、コレ、会社の新作でしょ。

麻希

はい。この間買ったんですよー。

直美

モイストヒーリングに特化してるやつね。

沙弥加

何すかモイストヒーリングって。

直美

え、沙弥加ちゃん勉強不足じゃない？

沙弥加

(翔子に)そんな商品出てたっけ？

翔子
沙弥加
（ゲームしながら）先月出たやつでしょ。
知ってるし。

翔子
当たり前じゃん。部長から説明あつたよね。

沙弥加
マジ？アレ？その時私何してたんだろ。

涼子
単純に聞いてなかっただけじゃない？ちゃんと自分で調べなさいよ？

沙弥加
はい。

直美
じゃ、もううねー。

麻希
はい。

麻希、カバンを足元に戻そうとする。

直美
ちよつと待った！！

直美、体を前に乗り出す。

直美
そのカバン、もしかしてHXXの春物の新作？！

麻希
あ、はい。そうなんですよ。

直美
マジで！見して見して。

麻希

はーい。

麻希、沙弥加にカバンを渡す。沙弥加、直美にカバンを渡す。

直美

うっわ。やっぱいいわコレ。良く買えたね。私行くトどこも売ってなくてさ。

麻希

直美さんもHJK好きなんですか？

直美

あれ？言わなかったつけ。私集めてるんだよねー。へー麻希ちゃんも好きなんだ。何か意外。

麻希

私の場合は中々手が出ないですけど。

直美

それは私も同じ。

麻希

自分への「褒美的な」？

直美

そうそう。えー、どこで売ってたの？

麻希

っていつか、直美さん使ってくれますか？

直美

え？

麻希

買ったのはいいんですけど、使ってみたら肩ヒモが思ったよりも小さくて痛いんですよ。私この

直美

デカさじゃないですか。

直美

いいの!! 本当!!

麻希

はい、是非使って下さい。今日初めて使ったんで手アカとかはついてないですから。

直美

全然いいって三回くらだった？

麻希 お金はいいですよ。

直美 そういう訳にはいかないでしょ。だって新品じゃん。

麻希 大切に使ってくれたら私も嬉しいですから。

直美 ダメダメ。こういうのはキチツとしとかなないと。

麻希 じゃあ今度食事に連れて行って下さい。

直美 そんなでいいの？

麻希 前から直美さんとお食事に行きたいなあって思ってたんで。

直美 オーケー、いいよ。私がとびっきりの所に連れて行ってあげる。

麻希 楽しみにしてます。

直美 じゃあ帰って来たら日取り決めようね。

麻希 はい。

沙弥加 直美先輩の「とびっきりの店」とか凄そうですね。

直美 前に涼子と行ったんだけどさ。

涼子 ああ、あのお店？

直美 超美味しかったのにこの子ジーンズ出すからさ、大変だったのよ。

涼子 だって店内に本物の樹とかすごい並んでさ、汚かったじゃん。

直美 アレはあるいうコンセプトのお店でしょ？樹だってちゃんと掃除してるって。

涼子 私は無理。

翔子 大丈夫なんですか？ペンション多分山の中ですよ？神経質な涼子さんにはキツくないですかね？
直美 無理して来なきゃ良かったのにねー。
涼子 ヒドーイ!!

直美と涼子、笑う。周りは複雑だが一緒に笑う。

直美 ねー？」等と話を振る。振られた相手は「やいや」等と笑いながらも困ったような対応。

涼子 でも大丈夫。お徳用の汗拭きシート持ってきたから。

沙弥加 そんなんでいいんですか？

涼子 ストレス感じると出るから体拭いてスッキリしてれば平気。

翔子 それもうヤバイレベルの神経質じゃないですか？って真弓さ、ブレーキ。

真弓 あ、すみません。

沙弥加 だからいつまでやってんだって。もう酔っても知らねーよ？

翔子 いや、何か思いの外進んじやってっさ。止め時がなかなか……。そういやアンタ直美さんに報告する事があつたんじゃないの？

直美 何？

沙弥加 ちよ、待って下さい。

沙弥加、カバンから新しいお菓子を取り出して食べる。

翔子

アンタこそ酔つても知らないよ。

沙弥加

食べます？

直美

いい。

涼子

いない。

沙弥加

(前の2人に)いる？

麻希

あ、いただきます。

翔子

食うんだ…。

沙弥加

真弓の分も取ってあげなよ。

真弓

ありがとうございます。いただきます。

直美

それよりさ、報告って何？

沙弥加、麻希にお菓子を取らせた後、再び直美の方に向き直る。

沙弥加

直美さん、泉敦子覚えてます？

直美

泉敦子？…誰だっけ？

涼子

あれでしょ？新卒で入ってきて二週間で辞めた子でしょ？

沙弥加

そうです。メガネかけてていつも不機嫌そうな顔してた、

直美

ああ、あの面倒くさかった子？

沙弥加

はい。

直美

仕事出来ないクセに文句ばかり言ってたよね。

翔子

一番ありえなかったのが、直美さんに意見した時ですよ。

沙弥加

アレ、マジありえねーから。

麻希

ああいう人って自分は良い事言ってるつもりなんでしょうね。

涼子

私達だってさ、試行錯誤をくり返して今の業務の流れが出来たわけでしょ。

直美

そーそー。

翔子

そうですね。今のやり方で充分まわってますもんね。

涼子

それを何も知らない新人が意見するなんて百年早いっての。しかも直美にさ。

直美

ましてウチは製薬会社なわけで、人の命を預かってるって言っても過言じゃないんだから

さ。やっぱりチームワークって大切じゃない？

麻希

もう本当そうですねー。

全員口々に同意する。

直美

そんでちよつと注意しただけで「ハワハラです！」とか言つて、半泣き状態で辞めてくんだもん。超ウケるんですけど。

涼子

ていうか脱線しすぎでしょ。泉敦子がどうしたの？

沙弥加

えっと私、あの子の指導係だったんですけど、

直美

あーそうだったね。大変だったでしょ。

沙弥加

もう超大変でしたよ。

涼子

で、どうしたの？

沙弥加

あ、それで、そんな時にツイッターとかフォローし合ってたんですけど、この間あの子のつぶやき見たら「労基署ナウ」とか書いてたんですよ。

涼子

は？何、そこまで根に持ってたの？

直美

まさか私の名前とか出してないでしょーね。

麻希

大丈夫ですよ。仮に出してもそのくらいで労基署は動きませんから。

直美

だよ。別に私悪い事言つてないもんね。

真弓

服装についての注意だったじゃないですか。正直、私もあの格好はどうかと思ってましたから。

涼子

あー、アレは流石に私もイラついた。

翔子

男意識しすぎでしょ。しかも似合つてないし。

沙弥加

それな。

麻希

皆同じこと思ってたウケますね。

翔子

ちよ、見してよつぶやき。

沙弥加

ほいよ。

翔子

写真付き？ウケる。

涼子

何これ。ダブルピースでノリノリなのに微妙な笑顔。

直美

私、この子のこういう表情ほんとムリ。

麻希

あ、分かりまーす。

涼子

っていうかさ、そもそも労基署まで本当に行く？って話じゃん。

直美

かなり引くよね。

涼子

自分が悪いクセにすぐ被害者ぶつてさ。私、そーゆー奴すごいムカつくんだけど。直美も

気にすることないからね。

直美

ありがとー。涼子だけだよ、私の味方は。

麻希

えー、私だって味方ですよー。

沙弥加

私も私も。

翔子

自分もです。

直美

皆ありがと！！ね、真弓ちゃん、何か音楽かけて。気分変えよ！！

真弓

はい。

真弓、ラジオのスイッチを押す。音楽が流れる。全員気分を変えて楽しそうにする。全員、運転に合わせて左右に揺れる。最初は楽しそうにはしゃいでいたが、次第にグッタリしてくる。

真弓が前方を指差す。目的地に到着した様子。若干元気になる。真弓、車を停止させる。全員車から降りて伸び等して一息つく。真弓の案内を受けながら直美、涼子、麻希が下手に去って行く。

沙弥加、前方の四人の背中を見ながら動かず眉間にシワを寄せている。それに気付いた翔子が声をかける。

翔子 何、そんなに酔ったの？

沙弥加

いや、それもあつけどさ、麻希よ麻希。

翔子

が？

沙弥加

直美さんのHK好き知ってんのよあの子。

翔子

え、そうなの？

沙弥加

覚えてねーのかよ。いや、かなり前の話だけどさ、皆でランチ食いに行った時、直美さんがファッション雑誌広げて熱く語った時あつたじゃん。

翔子

えー？…あー、あつたあつた!! え、あの子そういう手使うんだ。

沙弥加

別にいいんだけどさ、ああいうあざとさ見せられると疲れんだよね。

翔子 言やあいじゃん。

沙弥加 今、直美さんのお気になりつつあるじゃん？チクられたらコッチが危ないっての。

翔子 確かに。…あー、やだやだ、女ってメンド。

沙弥加 オメーも女だけだな。

翔子 ま、そうはいってもここまで来たんだし。何よりタダだし。楽しまなきゃ損じゃね？

沙弥加 ウーイー!!（ハイタッチ）

二人、下手へ移動を始める。歩きながら、

沙弥加 マジでさ、ウマイもんゲットしてよ。んで一口ちょうだい。

翔子 考えとくけど、麻希もやる気っぽかったじゃん。あっちが勝ったらどうすんの。

沙弥加 一口もらっつ。

翔子 結局かよ。

沙弥加 それはそれってことで。

二人、下手へ去る。中割りが開いて舞台全体が現れる。

ペンションの間取りは玄関からすぐにリビング。上手にドアがあり、その先はベットルーム。さらにその先にテラス。正面の壁にもドアがあり、室内バス、トイレ、キッチンになってい

る。ペンションからは三分ほど歩いた所に露天風呂がある。

全員疲れた様子で、しかしテンションは高目で口々にセリフを言いながら真弓、直美、涼子、麻希、沙弥加、翔子の順で入って来る。

涼子
腰痛ーい。

直美
ねー。

沙弥加
おおー!! 超イイじゃん。何このオシヤンティーな感じ。

翔子
やば、テンション上がってきたかも。

麻希
これなら涼子さんの蕁麻疹も大丈夫なんじゃないですか？

涼子
多分。

真弓
あ、荷物は奥の部屋でお願いします。

麻希
運転疲れたでしょ？座ってて。

麻希、真弓の荷物を持って上手奥の部屋へ。

真弓
ありがと。

直美、涼子、沙弥加、翔子も続いて奥の部屋へ。

真弓はイスに座る。奥から「わあゝ!!」という声。皆、喜んでいる様子。

涼子

こっちからテラスに出れるんだ。

沙弥加

涼子さん、ここでバーベキューやれますよ。

直美

これ大丈夫？寝る時、外から煙とか肉の匂い入ってこない？

麻希

エアコン入れれば良くないですか？

翔子

うっわ、ベット超フカフカなんだけど。

直美、涼子、沙弥加、麻希が戻って来る。真弓、立ち上がって奥のドア近くへ。

真弓

で、そっちが室内バスとキッチン、トイレになってます。

沙弥加が奥のドアへ移動。涼子がソファへ。麻希はイスに座る。直美がドア近くへ。

沙弥加

直美さん、見て下さいよ。風呂メッチャでかいですよ!!

直美

えー、どれどれ？

直美、奥のドアへ。

直美
うわー本当だ、メッチャ広い!!これあれじゃない?泡風呂とかやるパターンのやつでしょ。
沙弥加
泡風呂、超入りてエーつす。

直美、沙弥加が戻つて来る。沙弥加は近くのイスに座る。

直美
凄いいいペンションじゃん。

真弓
ありがとうございます。

涼子
温泉あるって言つてなかった?

真弓
あ、あります。ここから三分ほど歩いた所なんですけど。

涼子
三分?お風呂入った後で外歩くの?

直美
そのくらいいいじゃん。

沙弥加
涼子さん、お徳用、お徳用。(体を拭くジェスチャー)

涼子
露天風呂は一回くらいでいいかな。部屋のお風呂も結構いいんですよ?
沙弥加
はい。もう超ー広いですよ。

涼子、室内バスを見に奥へ移動。変わりに直美がソファに座る。

直美 お風呂上りは三分くらい歩いた方が、火照った体冷ますには丁度いいのね。
麻希 ですね。じゃあ直美さん、露天風呂は私と一緒に行きましょう!!
直美 いいよー。

沙弥加、上手のドアに移動して翔子に声をかける。

沙弥加 つてか、翔子いつまで寝てんだよ。
翔子 ちよつと待つて…。
沙弥加 いーから一回こつち来いって。

翔子、上手のドアから上半身だけを出す。

翔子 何？

沙弥加 オメー前面に出しすぎだろ。私だつて我慢してんのに。
直美 え？二人ともそうなの？

麻希 あ、実は私も。

真弓 もしかして…車酔いですか？

直美 頑張つて運転してくれたから悪いなつて思つて耐えてただけだね。

涼子、奥のドアから顔だけ出して。

涼子
限界。トイレ使うね。

真弓
あの、私酔い止め持ってますから。

翔子
先にもらいたかったかも。

真弓
すみません。

直美
でも飲まないよりマシじゃない？私はもらうね。

真弓
はい。

沙弥加
自分も。

麻希
私も。

翔子、無言で手を上げ近くのイスへ座る。

真弓
ちょっと待って下さい。カバンから取って来ますので。

涼子、トイレから戻って来る。

直美
涼子
涼子もいるでしょ。酔い止め。
あるの？もらう。

涼子、ソファへ。真弓、奥の部屋へ行こうとする。
全員のケータイにメールの着信音。各自ケータイを出して確認。

涼子
麻希
多分……あ、ですね。

直美
涼子
真弓
この度は弊社主催のイベントにご参加頂き誠にありがとうございます。先にご案内させて頂いているように当イベントはメールの指示に従いつつ、ご友人の行動にも気を配りながら犯人を当てるゲームです。十分にお楽しみ頂くためにも幾つかの注意点が、ちよつと、音読マズくない？
じゃ、私、薬取つてきますね。

真弓、ケータイを見ながら奥の部屋へ。全員無言でメールを読む。それぞれのキャラで反応。（溜め息。理解を示す。文章が理解できない等）
真弓が薬を持って戻って来る。（自分用のペットボトルの水も一緒に）

真弓

どうぞ。

全員、真弓の近くに薬を取りに行く。

翔子

これってもう始まってんの？

真弓

え？まあ……多分。

麻希

書いてあった事を交えながら行動するんでしょう？

真弓

うん。

麻希、薬を受け取ってキッチンの方へ移動。翔子、薬を受け取って出入り口の椅子へ座る。真弓がソファに座っている直美に薬を持って行こうとした途中で沙弥加が近づく。

沙弥加

ちよーだい。

真弓

はい。

沙弥加、薬を受け取って奥の部屋へ。真弓、直美と涼子に薬を渡す。麻希が500mlのペットボトルを六本持って来る。

麻希

どうぞ。

麻希、直美↓涼子↓翔子の順でペットボトルを渡す。真弓に渡そうとした時に

真弓

私大丈夫。自分のあるから。

麻希

あ、さっきコンビニで買ったもんね。

真弓

うん。

真弓、金庫の近くに。麻希は真弓の分のペットボトルを机に置く。

沙弥加がお菓子を持って戻って来る。麻希、沙弥加に渡す。無言で受け取る沙弥加。

直美

これ眠くなる成分入ってるやつじゃない？

真弓

すみません。ちゃんと効くのそれしか売ってなくて。

直美

まあ、別にいいけどさ。

沙弥加

そういや何でウチの会社って酔い止め出さないんですかね？

涼子

また勉強不足。出してるよ、ウチ。

沙弥加

え、そうでしたっけ？

直美

同じように眠くなる成分入ってね。それ飲んで運転したドライバーが事故って家族が

ら訴訟起こされた事があつてさ。

沙弥加

え、そんな、そのドライバーが悪いんじゃないっすか？

涼子

まあ、そうなんだけど。事実裁判は勝ったわけだし。ただ会社としてはネガティブな方向で名前が出たつてわけよ。

翔子

それで今は大っぴらに宣伝してないって事ですか？

涼子

まあね。

涼子、返事をしつつ立ち上がり、奥の部屋へ移動。その他メンバーは薬を飲む（涼子は直美が話している間に飲む）

翔子

何でお菓子なんか持って来たの？

沙弥加

えー、いやー、皆で食べようかなって。

翔子

私達がどういう状況か分かってる？ってかアンタも気持ち悪いんでしょ？

直美

もしかして指示？

沙弥加

別にそういう訳じゃないんですけど。

直美

動くにしてもちよつと早すぎじゃない？

翔子

ですよ。

直美

とか言つて、そういう翔子ちゃんも何でわざわざそっちに行ったの？

翔子

え、いや別に意味はないですよ？

沙弥加

オメーもバレバレだな。

翔子

も」とか言ってるし。

沙弥加

やつべ。って直美さん、推理ノリノリじゃないですか。

直美

別にそういうんじゃないんだけどさ。

翔子

麻希は？

麻希

はい？

翔子

何でキッチンにペットボトルがあるって知ってんの？指示だから？

麻希

いえいえ。薬を飲むなら水があるなと思って思ったので、キッチンに行ったらありました。

翔子

だってこれ冷えてるじゃん。冷蔵庫にあつたんでしょ？

麻希

たまたま覗いただけですよー。冷蔵庫って何か覗きたくなりませんか？

沙弥加

あ、それ分かるかも。

真弓

でも仮に指示だったとしてもいいんですけどね。犯人を当てるゲームなんですから。

翔子

あ、そうか。変に言い訳する事ないのか。

直美

でも犯人だってバレたくないから指示っぽい行動するでしょ？

沙弥加

やつぱり推理ノリノリじゃないですか。

直美

だからそういうんじゃないって。

翔子

あ、そうだ。

翔子、何かを思い出したように奥の部屋へ移動。すれ違うように涼子が白いスーツを持って戻って来る。涼子そのままソファーにかける。直美、少しどいて協力する。

直美

これベットのシートでしょ？

涼子

しょーがないじゃん。

麻希

涼子さん、それは流石に無理ありません？

真弓

分かんないよ。ありえない行動して自分は犯人じゃないって思わせる作戦かも。

涼子

なんでそんなめんどくさい事しなきゃいけないの。とにかく、私はちゃんとやったからね。

翔子、ケータイと充電器を持ちながら入って来て、コンセントを探すがなかなか見つからない。

沙弥加

充電かよ。

真弓、金庫の傍で後ろ向きにペットボトルを飲むが、激しくむせる。麻希、心配して真弓の背中をさする。

麻希

どうしたの？大丈夫？

真弓

大丈夫大丈夫。飲み慣れないもの飲んだから。

麻希

（ペットボトルを取って）これ？水でしょ？

麻希も一口飲む。嘔き出しそうになる麻希、少しむせる。

麻希

何これ。

真弓

さっきのコンビニで買ったやつ。

直美

どうしたの？

麻希、ペットボトルを直美に渡す。沙弥加と涼子も近付く。

麻希

何かこの水、変な味がするんです。

沙弥加

ただの水でしょ？ちよ、いい？

沙弥加、直美からペットボトルを受け取り一口飲む。

沙弥加

うお、マジか、何これ。腐ってんの？

沙弥加、直美にペットボトルを戻す。ラベルを見る直美。

直美 腐ってるんじゃないくて、硬水だからだよ。

麻希 硬水って何ですか？

涼子 軟水硬水の硬水でしょ？

直美 そつ。日本人は軟水に慣れてるからね。硬水はマズイって感じるかも。海外とかだと良くあるけど。

沙弥加 詳しいっすね。

直美 ホラ、私海外旅行よく行くじゃない？

真弓、苦しそうに咳払いを数回する。

麻希 大丈夫？すごいむせてたけど。

真弓 うん。何とか落ちた。

麻希 やっぱりこっち飲んだら？普通の水だから。
真弓 ありがと。

麻希、真弓に机の上に置いたペットボトルを渡す。真弓、一口飲む。

翔子

あれー？

翔子、コンセントを探すが見つからず、再度奥の部屋へ。

涼子

ところでさつきから気になってるんだけど、その金庫って何？

直美

貴重品とか入れておくんじゃない？

沙弥加、金庫の方へ行き、開けようとするが開かない。

沙弥加

鍵がなきゃ開かないみたいですね。

直美

鍵？鍵なんて見てないけど。近くにないの？

沙弥加

無いつすね。

麻希

あ、もしかしてこの中に景品が入ってるとか？

沙弥加

いや、それこそ腐んだろ。

麻希

腐らないものとか。

涼子

保存食って事？それは景品としてどうかと思うけど。

直美 別に食べ物そのものって考えなくてもいいんじゃない？高級料理店のチケットとか。
麻希 成程!!その可能性高いですね!!

翔子が戻って来る。

麻希

どうしたんですか？

翔子

コンセントが見当たらないんだよね。

沙弥加

コンセントなんてその辺にあんだろーよ。

翔子

ないんだっつ。

翔子、奥のドアからキッチンの方へ移動。

翔子

あつ!!こんなトコにあった。

麻希と翔子が奥のドア付近へ移動。

翔子

なんで廊下にしかコンセント無いわけ？

沙弥加

え、マジ？超不便じゃね？

涼子 お洒落だけどこ何か変な作りのペンションだね。

麻希 多分無計画に増改築をくり返したんだと思います。そういうの計画的にやらないと電気系統とか水回りに無理が出るんですよ。

直美 詳しいね。

麻希 前の職場が不動産だったんで、色んな物件見たことあるんです。

翔子、リビングに戻って来る。

沙弥加 じゃあさ、アレは？部屋で人が殺されたり自殺したってやつ。

麻希 事故物件ですか？私は行ったことないですけど。皆が過保護だったんで。入居者がコロコロ変わる物件がありました。

翔子 へえ、やつぱあるんだそういうの。

麻希 三日ももたなかった人もいますよ。

沙弥加 うわ、ヤッバ!!マジで。

翔子 どんな物件？

麻希 東五反田にあるんですけど、殺されたのが若い女性で、ストーカーによる犯行だったらしいですよ。

真弓 そういうの本当にあるんだ。

沙弥加 ね、ドラマみたい。

麻希

も、本当ドラマみたいで。その人何回も警察に相談してたらしいんですけど、全然相手にしてもらえなくて、悩んでたみたいです。

翔子

事件にならないと動かないよ警察は。

沙弥加

死んでから動いてもおせーだらつっの。

麻希

だから女の人は相当恨んでると思います。

真弓

ストーカーを？警察を？

麻希

生きてる人全てを…なんてね！

翔子

で、そのストーカーってどうなったの？

涼子

もうよくない？その話。

一瞬、シンとする。真弓、麻希、沙弥加、翔子が涼子を見る。

麻希

…すみません。えつと…。

直美

そっか、皆は知らないんだっけ。…あれ？でも誰には話したような気がするけど。

沙弥加

何ですか？

直美

この子さ、実際に襲われた事あるのよ。ストーカーじゃなくて変質者にだけどね。

麻希

そうなんですか？！私もあるんですよ。痴漢とかも多いですよー。

沙弥加

今オメーの話じゃねえから。（涼子に）どんな感じで襲われたんですか？

涼子

どんな感じって……駅から帰ってる途中小道があるんだけど、そこで。

翔子

後ろからガバッみたいなやつですか。

涼子

(小さくうなずいて)怖いし気持ち悪いし最悪だった。

真弓

それで……どうしたんですか。最後までとか？

直美

丁度私が仕事の事で涼子に電話したのよ。マナーにしてなかったから急に着信音が鳴ったんだって。

涼子

そしたらビビって逃げてった。

直美

そんなくらいでビビるなら最初からやるなっつーのね。

麻希

いやでも流石直美さんですよ。グッジョブです。

直美

ほら、私ってタイミング逃さないタイプじゃない？……で、それ以来変質者とかストーカーが超苦手ってわけ。

涼子

今じゃ都市伝説まで嫌いになったわよ。

翔子

カウンセリングとか受けました？

涼子

そんなとこ行っただって時間とお金の無駄でしょ。

直美

対策はバッチリだもんね。今日も持つてるの？

涼子

一応ね。

涼子、腰のポーチからナイフを取り出す。全員の視線がナイフに集まる。緊張感。

翔子

いや、分からなくもないですけど、いざって時にブスツていけますかね？

涼子

襲われてる時に思ったもん。今ナイフがあれば絶対に刺してやるのにつて。

沙弥加

やつは経験者が言うと言葉の重みが違いますね。

真弓

でもそれって正当防衛成立しますかね？予め用意してたとなると過剰防衛になりませんか？

涼子

つていうか、この話もういいし。

麻希

ですよね！！折角の旅なんですから楽しいお話しましょうよ！！

全員、メールの着信音。

直美

え、また？

翔子

メールこのペースで来んの？

翔子は廊下に移動。他はその場でケータイを確認。

直美

ねえ、麻希ちゃん。

麻希

はい。

直美 私あんまりネットとかに詳しくないから教えてほしいんだけどさ。
麻希 はい。

麻希、直美の近くへ移動。翔子が顔を出して、

翔子 私、詳しいですよ。

直美 大丈夫。麻希ちゃんが良い。

翔子、奥へ戻る。

直美 これって、犯人の当て方が書いてあるんでしょう？

麻希 そうです。犯人が分かったら、ここをクリックして、

直美、ケータイをクリック。

麻希 で、このボックスに犯人だと思う人の名前を入力して送信すればOKです。

直美 こんなだったら自分以外の名前を五回送れば良くない？

麻希 いえ、これ一回送信ボタン押したらもう送れなくなるんです。

直美 そうなの？へー今ってこんな事もできるんだ。じゃチャンスは一回きりって事？

麻希

ですね。

涼子、机の上のお菓子を食べ始める。

直美

ちよつと、大丈夫なの？

涼子

好きで食べてるわけじゃないし。

翔子、戻って来ながら、

翔子

つていう 指示ですアピール」ですか？

涼子

ご想像にお任せします。

沙弥加

もう水、大丈夫ですか？片しますよ。

翔子

ウケる。そんなキャラじゃねエーだろ。

沙弥加

は？部屋の掃除も出来ないオメーに言われたくねエし。

麻希

片付けなら私やりますけど。

沙弥加

いいって。誰か飲む人います？

麻希

あ、じゃ私一口だけ。

涼子

私も。

真弓

じゃあ、自分も。

沙弥加

(翔子に)アンタは？

翔子

大丈夫。

直美

私もいない。

麻希、涼子、真弓、水を飲む。飲んだ後、ペットボトルを自ら回収する沙弥加。奥のキッチンへ。

翔子

涼子さん、肩こってませんか？

涼子

は？

翔子

私上手いんです。やってあげますよ。

涼子

車酔いおさまってないのにマッサージはちょっとキツイと思うけど。

翔子

…ですよ。

涼子

いって、分かった。お願い。

翔子

あ、何か、すいません。

翔子、涼子のマッサージを始める。

麻希、突然二つの椅子の置いてある位置を入れ替える。

真弓

皆さん根が真面目なんだなって分かりますね。

直美

指示が出た途端実行に移すあたりが特だね。

麻希

え!?別に大した意味はないですよ。これ、こっちにあった方がしっくりきませんか？

翔子

いや、麻希のはかなり無理があるから。

沙弥加が戻って来るタイミングと被る。

沙弥加

つてかオメーのマツサージもな。

直美

一応確認なんだけどさ、指示つてすぐにやる事ないんだよね？普段の生活の中でやっていけばいいんですよ？

真弓

はい。

麻希

でも早くやらないと落ち着かないじゃないですか。

直美

麻希ちゃんは真面目すぎるよ。

麻希

そうなんですよ。私、嘘とかつけないんで。

沙弥加

おべっかは使えるけどな。

翔子

やめなつて。

涼子

…この企画考えた人さ、思いついたときはイケるって思ってたんだろうね。

真弓

はい…。っていうか、私も楽しそうって思ったんですけど、結構ギスギスしちゃいますね。

直美

ゲームなんだからさ、もうちょっと皆気楽にこよう。このままじゃ真弓ちゃんが気にし

沙弥加

直美

翔子

ちやうでしょ。ね、とりあえずペンション着いたんだし記念に皆で写真撮らない？

いっすね！！案外初めてじゃないですか？皆で写真撮るの。

誰ので撮る？

あ、私のタイマーついてるんで。

翔子、ケータイを操作。タイマー設定をする。机にセッティング。

その間、五人は立ち位置を決める。

真弓

麻希

沙弥加

涼子

沙弥加

麻希

涼子

直美

沙弥加

麻希

直美さんと涼子さんは真ん中でお願ひします。

私、直美さんの隣がいい！

いや、横一列はおかしーから。

二列になる？

（麻希に）前でもいいけど、デケエんだからしやがめよ？

沙弥加さん、私に当たりキツくありません？

何、麻希の事嫌いなもの？

ちよつと、皆仲良くしてよねー。

別にそんな事ないですって。ホラ、私言葉汚いからさ。

良かったー。でも、何かあったら直美さん守って下さいね。

直美
いいよ。麻希ちゃんは私が守ってあげる。

全員位置を定める。前列下手から麻希、直美、涼子。後列下手から真弓、沙弥加、翔子。麻希と直美の間から真弓が顔を出す。以下、交互。翔子がカメラの位置を調節。

沙弥加
やべ。これ何か日本代表みたいじゃないですか？

直美
絶対負けられない戦いは特にないけどね。

翔子
じゃ、いきまーす。

翔子、ボタンを押し、自分の位置へ。無事撮影が終わる。翔子、ケータイで写りを確認。
沙弥加と麻希が覗き込む。

沙弥加
おつ、なかなか良く撮れてんじゃないん。

麻希
私、目が半開きじゃないですか？

沙弥加
大丈夫つよ。充分カワイイって。

麻希
そうですか？

涼子
ね、後で送って。

直美
私も。

真弓

お願いします。

翔子

全員に送つときますね。

直美

うん、ありがと。

全員、目をギュツと瞑る回数が増える。眠そうな様子。涼子、ソファーに座る。

涼子

どうする？皆はもう直ぐに温泉行く？

直美

涼子は？

涼子

うーん、ちよつと眠いんだよねー。朝早かったし。一眠りしてからでいい。

直美

なら私も後でいいかな。

直美もソファーに移動。

沙弥加

自分も後でいいです。

涼子

気使わなくていいよ？

沙弥加

いや、何かすげー眠いんすよね。

沙弥加、近くの椅子に座る。

真弓
麻希

じゃあ一旦寝て、皆で行きましょうよ。
そうだね。

真弓、麻希、翔子も近くの椅子に座る。

直美
真弓
涼子

真弓ちゃんは運転で疲れただろうからゆつくり休んでね。
ありがとうございます。そうします。
じゃ、とりあえずおやすみ。

暗転。カンカンと釘を打つ音。場面転換。

ドアに板が打ち付けられて、リビングと奥のトイレ以外入れなくなる。

明かりがつく。全員が同じ場所で寝ている。

翔子が一番に目を覚ます。最初はボーっとしているが、周辺の変化に気付く。出入り口側のドアに近づき板を見る。釘が打ち付けられている事を確認。涼子が目を覚ます。

涼子

…何やってんの？

翔子

あ、ちよつとこれ見てもらえますか。

涼子、翔子の近くへ移動。板を見る。

涼子

何、翔子がやったの？

翔子

違いますよ。起きたらこうなってたんです。

涼子

外出れないじゃん。誰がやったわけ？

翔子

さあ…。

直美が目を覚ます。首を回して解す。

直美

あー首痛い。

涼子

ねえ、これ見てよ。

直美

あ、二人とも起きてたんだ。

直美、言いながら二人の方へ移動。板を見る。

直美

何これ。どうしたの？

翔子

いやそれが、

涼子

起きたらこうなってたんだって。

直美

えー。だってしつかり釘打たれてるじゃん。いいの、これ。

涼子

ヤバくない？

直美

ちよつと皆起こそっか。

直美は麻希を、翔子は沙弥加を、涼子は真弓を起こす。

沙弥加

あー、何か頭重いんだけど。

直美

ねえ、ちよつとこれ見て。

直美、出入り口のドアを指す。

麻希

え、何ですかこれ。

真弓、麻希、ドアに近付く。真弓、ドアノブを持って開けようとするが開かない。

真弓

このままじゃ出れないですよね。

涼子

誰、やったの。

真弓、麻希、首を振る。

沙弥加

いや、っていうか言わなくないですか。

涼子

何で？

沙弥加

え、これって、要はゲームスタートって事つすよね。何か私ら閉じ込められるとかって言っ

てませんでしたっけ。

直美

それはそうかもしれないけどさ、ここまでやる？

沙弥加

そんなヒドイんすか。

沙弥加もドアに近付く。

沙弥加

うっわ、がつつりやってますやん。

涼子

ゲームだとしてもさ、壁とかドアにここまで釘打っちゃって平気？

直美

いやー、まあ指示にあつたんなら大丈夫だとは思っけど。

麻希

でも責任ってこっちに来るんですかね。

翔子

それはないでしょ。

沙弥加

(改めて板を見て)しつかしガツチガチですね。

真弓

一旦落ち着きませんか？寝起きで考えがまとまらないんですけど。

直美、涼子、ソファへ移動。沙弥加と翔子、椅子に座ろうと周りを見回した時に、上手側のドアも板で止められていることに気付く。

沙弥加

ちよ、こつちも!!

沙弥加、上手のドアへ移動。翔子、真弓、麻希も続く。直美と涼子は体を向けるだけ。

涼子

どう？

沙弥加

ダメっすね。こつちもガチガチです。

直美

マジで？私あつちに荷物あるんだけど。

涼子

いや全員そっすよ。

翔子

え、何これ、どうすんの。

麻希

早急に犯人当てろって事じゃないですか。

真弓、ケータイの画面を確認する。

麻希

真弓

どうしたの？

寝ている間に新しい指示が来てないかなって思っ

真弓の言葉に全員ケータイを確認する。しかしメールは入っていない。

口々に「来てない」等の台詞か、首をふる動作。

沙弥加

まあ、早く終わらせられるなら、この後ゆっくり出来るからいいすけどね。

翔子、周辺を見渡した後、出入り口付近のドア前まで移動。

釘が打ってある所を触ったり何かを確認している様子。沙弥加、翔子の近くへ。

沙弥加

早速推理開始ですかい？期待してっからさ。

翔子

ちよっと静かにして。

翔子、板に釘が打ってある所をドンドンと叩く。

涼子

うるさいんだけど。何、急に。

翔子

ですよね。うるさいですよ。

直美

そりゃそんだけドンドン叩いたらうるさいでしょうよ。

麻希

あ、そっか。

翔子

自分基本眠りが浅いんで、少しの物音でも目が覚めちゃうんですけど……これだけの釘打ち込んで目が覚めないって考えられないんですよ。

麻希

全員が同じタイミングで寝たのも不自然じゃないですか？

涼子

睡眠薬って事？

翔子

可能性が高いです。

涼子

だとしたらイベントにしてはやり過ぎじゃない？もし、温泉に入ってる時に睡魔が襲ってきたら普通に死ぬるよ？

真弓

そうですね。たまたま皆ここで寝てたから良かったですけど。

涼子

いや、そっですわね」じゃなくてさ。このイベント会社大丈夫？ちよつと電話してみなよ。

真弓

あ、はい…。

真弓、ケータイを出して電話をする。翔子と麻希はドアを観察する。

沙弥加は椅子に座ってキョロキョロと落ち着かない。

真弓

出ないです。

涼子

は？！どうなってるの？

真弓

分かりません。

麻希 事務所に電話したの？

真弓 え？そうだけど。

麻希 出ないんだよね。

真弓 うん…。

麻希 じゃさっき来たメールはどうやって誰が送ったんだろ。

翔子 ま、パソコンからなら時間指定してメール送信できるから、それは事前に設定したんじゃない？

麻希 成程。

沙弥加 つてか、旅行代理店の人がやってるのかもしれないじゃん？

涼子 そうだ。そっちにも連絡してみなよ。

真弓 …それが。

涼子 何？

真弓 イベント会社の番号しかケータイに入っていないんです。

涼子 真弓さ、何やってんの？

真弓 すみません。

沙弥加 いや、涼子さん、そんなに怒んでもいいじゃないっすか。

翔子 随分余裕じゃん。

沙弥加 いやだって、これやったのはこの中の誰かなわけで、その人だってメールの指示に従っただ

涼子

けつしょ？ゲームの範疇じゃん。睡眠薬の件は説明があつたかどうか知んねーけど。流石にゲームって枠超えてない？その誰かは乗せられすぎ。

直美

まあさ、私達なら自由に出来るけど、下の子達は氣イ使っちゃったんじゃない？

涼子

そういう事じゃなくて、常識的に見て考えが甘いつて言ってるの。

直美

涼子が偉いのは分かったからさ、落ち着きなよ。そんな言い方したら犯人探しがゲームじゃなくなるじゃん。

涼子

出た。理解ある先輩発言「…っていうかもういいや。（板の方を見て）犯人はこれやる為に私達に睡眠薬飲ませたわけでしょ？可能性があるのは、

翔子

水を用意した麻希か、お菓子を用意した沙弥加。

麻希

それなら薬を用意した真弓の可能性もありますよ？

翔子

酔い止めは私達が車に酔つたから出ただけでしょ。ちよつと不確定要素が強すぎだと思うけど。

沙弥加

っていうか酔い止めついでに睡眠薬つて。そのまま過ぎじゃん。

麻希

でも真弓が全部本当の事言ってるとは限らないじゃないですか。

沙弥加

必死。ウケる。

翔子

何、そんなに真弓を犯人にしたいの？

涼子

もう今そーいうのいらなから。睡眠薬の件も教えられてなかったって事でいいから。犯人名乗り出て終わりにしようよ。

直美

涼子

直美

麻希

翔子

沙弥加

直美

沙弥加

真弓

うつわめつちやテンション下がる発言。もうストレスで尋麻疹出そうなの？

それだけじゃなくて、さつきから言ってるけどやり過ぎだって言ってるの。

睡眠薬なんて市販でも売ってるんだから気にし過ぎだって。遊園地のお化け屋敷だって、れくらの事はするでしょ。ね、麻希ちゃん。

え？えつと、私にはちよつと分らないです。

とにかく場の雰囲気悪くなるからさ。…もう麻希か沙弥加のどつちかなんでしょ？

いや私じゃねーし。

じゃ何で机のお菓子無くなってるの？

私片付けてませんから。

あれ？…飲んだはずなのに水、増えてません？

真弓。ペットボトルを取る。キャップを回す。

これ、新品になってます。

全部？

はい。あ、待ってください。何かメモがあります。

メモ？

翔子

真弓

直美

真弓

全員、真弓に近付く。

翔子 「これは自分に罪はないと思っている者への復讐だ」……って、この書き方やっぱゲームですよ。

直美 えー。何かこういうのってゲームと分かってても気持ち悪くない？

翔子 っていうか何故に手書き？

沙弥加 あれ？ちよ、見して。

沙弥加、真弓からメモを取り、ジッとメモを見る。

翔子 いーじゃん。何かイベントっぽくなってきたじゃん。

麻希 でも、何でこれ新品にしたんですかね？

翔子 多分、推理が詰まったらこれ飲めって事でしょ。そしたら次の展開になるんじゃない？ゲームでも多いじゃんそういうの。

涼子 ゲームは良く知らないけどさ、水に睡眠薬が入ってたって事？麻希が犯人じゃん。

翔子 さっき麻希が用意したからってこれもそうとは限りませんよ。麻希を犯人に思わせる為の罠かも。

全員にメールが入る。

真弓

：指示ですね。

翔子

ここから犯人は手掛かりになる行動をしていくって事でしょ。とりあえず私は沙弥加を見張ってようかな。

沙弥加

だから私じゃねーわ。

麻希

あの、奥も確認しました？

直美

いや、まだだけど。

麻希

キッチンに何かありますか？安心したらお腹空いちちゃって。

沙弥加

あ、私も私も。

涼子

冷蔵庫見てみる？

全員、奥へ移動する。(麻希が最後尾)真弓が呼び止める。他の人は奥へはける。

真弓

麻希、ちよつといい？

麻希

何？

真弓

皆には話しづらくて。

麻希

何。

真弓 このイベントツアーなんだけども、紹介してくれたの……敦子さんなんだよね。

麻希 敦子ちゃんか？

真弓 うん。

麻希 え、何であの子が旅行に行く事知ってるの？

真弓 沙弥加さんがまだ付き合っているみたいだし、話題に出たのかも。

麻希 それで、向こうから連絡があったの？

真弓 面白いツアーがありますよって。

麻希 ……え？まさか敦子ちゃんが何か仕掛けてるとか言わないよね？

真弓 でも正直、涼子さんの言う通り、イベントとはいえ睡眠薬とかはやりすぎな気がする。

麻希 じゃあこれやったの敦子ちゃんって事？どっかに隠れてるの？

真弓 それは分からないけど……ただ、あの人の行動力って少し異常っていうか。

麻希 ああ……ね。ちよつと待って。電話してみる。

真弓 え？電話番号知ってるの？

麻希 私もあの子の指導係だったからさ。ケータイの番号ぐらいは。

麻希、電話をする。応答は無い。

麻希 ダメ、出ない。……どうする？皆にも話す？

真弓　麻希はどうした方がいいと思う？
麻希　えー、分かんないよ。

直美、涼子、沙弥加、翔子が会話をしながら戻って来る。真弓と麻希、奥のドアの方を見る。

涼子　あれ、どうしたの？

麻希　あ、いえ別に。それよりどうでした？

翔子　キッチンとお風呂のドアが同じ状態だった。

沙弥加　ま、トイレが使えるだけマシかね。

真弓　トイレに窓ってありました？そこから外へ…。

沙弥加　こんなだよ？

沙弥加、指で四角を小さく描く。

翔子　と、なると正攻法で犯人当てるか、この板を剥がすしかないわけだ。どっかに釘抜が隠されてるって可能性は。

麻希　脱出ゲームじゃないんですからそれは無いんじゃないですか？

翔子

でも犯人当てたらイベント終了でしょ？外出れるようになるよね？

沙弥加

このペンション外への抜け道あるんじゃない？

直美

だからそれじゃ脱出ゲームじゃん。

涼子

とりあえずさつき来た指示通り動けば手掛かり出してくれるんでしょう？もう早くやろうよ。

直美

ホント余裕無いけど大丈夫？

涼子

寝汗拭きたいの。荷物あつちだからさ。

直美

じゃ、ちよつと皆も協力して。

沙弥加

……動いたけど？

翔子

私も。

真弓

自分もです。

麻希

はい。

真弓、麻希、沙弥加、翔子、口々に「はい」や「分かりました」等で返事をして一気に動く。
(動くときは他の人の動きを見ながら動く)

行動はソファアの白いシートを動かす事以外であれば各自で決めてもらって構いません。
行動した後、六人がその場で互いを見て、牽制し合う。無言の間。

直美 私もやったよ。

涼子 ……怪しい人いた？

翔子 いや、特には。

涼子 は？！これじゃ全然進まないじゃん！！本当に指示通りやったの？！

沙弥加 やりましたよ！！

翔子 もしかしたら、現時点ではこれ以上進展しないのかもしれませんが。

直美 さつき翔子ちゃんと言ったみたいに、次に行きたきゃまた全員で寝なさいって？

直美、ペットボトルを指差す。

翔子 多分……。

沙弥加 いや、でもそれってめっちゃ強引じゃありません？

涼子 もう強引でも何でもいいよ。とにかく早く終わらせて、私に体を拭かせて。

涼子、ペットボトルを取ろうとした時に

真弓 あ。

涼子 何？

真弓 あ、いや、一番にペットボトル取る人って怪しいかなと思ひまして。
涼子 は？

直美 ああ。犯人は寝るわけにはいかないし？

涼子 真弓さ、今そついうめんどくさい事言つものやめてくれる？

真弓 すみません。

直美 じゃ涼子は何番目でもいいの？

涼子 いいから早く取つてよ。

涼子、ペットボトルを取るよう勧めるが、一番目に取りにくい雰囲気が出来てしまう。

涼子 ほら、こつこつ感じるになる。

真弓 あ、はい。じゃあ自分から取りますんで、皆さんもお好きなの取つて下さい。

涼子 飲んだ飲まないでメモるの嫌だから最初からちゃんと飲んでよ？

麻希 大丈夫です。

真弓が少し悩んでペットボトルを取つた後、それぞれが取つて水を飲む。離れて自分の居場所を確保して座る六人。麻希が辺りを見渡す。

直美 どうしたの。キョロキョロして。

麻希 いえ、何でもありません。

沙弥加 あ、来た。眠くなってきた。

直美 とりあえず犯人の人さ、常識的に考えて行動しようよ。涼子が怒るからさ。

誰も返事をしない。

直美 あ、やっぱり返事しないか。

翔子 直美さんって意外と策士ですね。

涼子 でもホントお願いね。返事しないでいいからさ。

やがて全員眠りにつく。暗転。暗転の音楽。

しばらくして明かりがつく。真弓以外の全員が同時に目覚める。

沙弥加 あー、やっぱり頭重い。私、睡眠薬合わないかも。

涼子 何受け入れてんの。これで飲まされたのが睡眠薬って確定したわけですよ。
沙弥加 ですねー。

直美 何か変わった所は……？

全員、辺りをキョロキョロと見渡す。

翔子 特になさそうですけど。

麻希 行ける範囲って変わらずなんですかね。

麻希、立ち上がり出入口のドアへ。

翔子、上手のドアへ。沙弥加、奥のキッチンへ。直美と涼子を見ている。全員体が重そう。

麻希 さっきと変わりのないです。

翔子 こっちも。

直美 何も変わってないの？

涼子 ちよつと勘弁してよ。

直美 沙弥加ちゃん、そっちはどう？

沙弥加、戻って来る。

沙弥加 さっきのまんまっすね。

直美

えー何だろ。

翔子

何かのフラグ立てないと先進まないとか？

麻希

それじゃ完全にゲームの世界じゃないですか。

沙弥加

つてか真弓まだ寝てんだ。

翔子

あ。全員が起きてないと犯人が行動できない的な。

涼子

そういう可能性があんの？じゃあ真弓、起きてくれる。

沙弥加

睡眠薬で寝てる人って無理矢理起こしてもいいんですっけ？

直美

まあ、大丈夫じゃない？

涼子、真弓の近くへ移動。

真弓は椅子の前に座り、椅子に覆い被さるように寝ていて、右腕を枕変わりにしている。

沙弥加

この状態でずっと寝てたんですかね？右腕の感覚なくなってるんじゃないですか？

涼子

真弓、もう皆起きてるよ。…もしもし、

涼子、真弓の体を揺する。真弓、椅子から床に倒れるが起きない。

沙弥加

薬効きすぎっしょ。たんこぶ出来たんじゃな…

沙弥加、真弓に近付こうとするが、様子がおかしい事に気付き動けなくなる。沙弥加、涼子を見る。涼子も沙弥加を見て、再び真弓に視線を戻す。

沙弥加

涼子さん……これ……

直美

どうしたの？

沙弥加

いや……。あの……

麻希

真弓ってビックリするくらい低血圧ですから、もう少し強引に起こしてもいいくらいですよ？

麻希、真弓の近くへ行こうとする。

涼子

そうじゃなくて。

麻希、立ち止まる。シーンと静まる。

翔子

え、マジで？嘘でしょ。

沙弥加

じゃ近くで見てみーよ。

翔子 いや、いいし。

涼子 これ何？死んでんの？

沙弥加 多分……。

涼子 病気？それとも、

沙弥加 やめて下さいよ。

涼子 じゃあ何で死んでんの？

沙弥加 いや何でって……。

翔子 どーするんですかこれ。

涼子 私に聞かないでくれる？

沙弥加 キれるのやめて下さいよ。私達じゃないんですから。

涼子 そんなの分かんないじゃん。私寝てたし。

沙弥加 一緒ですって。

麻希 あの、少し落ち着きませんか。

直美 ねえ……とりあえず悪いんだけど、真弓ちゃんの体にこれお願いできる？

直美、白いシーツを沙弥加の方へ出す。沙弥加受け取る。

沙弥加 そっち持つて。

麻希、慌ててシーツの片方を持ち、真弓の体全体が隠れるように覆う。全員ソファークの近くへ移動。

直美

どう思う？真弓ちゃん、病気とかって持ってたっけ？

翔子

どちらにせよ人が死んでるんですから、まずは警察と救急車じゃないですか？

直美

そうだね。頼める？

翔子

はい。

翔子、ケータイを出そうとするが無い。

翔子

あれ？…私のスマホ知りません？

直美

無いの？

翔子

はい。

全員、自分のケータイを探しながら周りを見る。

沙弥加

私も無い。

直美

私も。

麻希
ありません。

直美
寝る前はあつたよね？

翔子
です。誰かが取った？

沙弥加
何で。

翔子
外部と連絡が取れないようにとか。

麻希
じゃあ真弓は……って事ですよね？

直美
誰？……この中の誰かなんでしょ？

沈黙。全員警戒して他の人を見る。

沙弥加
でも何で真弓を？

翔子
恨みがあつたとか。

沙弥加
で、イベントに便乗して殺したって？

直美
便乗？

沙弥加
何かメモあつたじゃないですか。自分の事を悪いと思ってない人に復讐するとか何とか。

麻希
悪いと思つてない人というのが真弓ですか？

翔子
単数だっけ？複数形じゃなかった？ 人達」とか。

沙弥加
じゃ私達も含まれるって事じゃん！

麻希

でも生きてますよ？

翔子

何か思惑があるとしたら……。

直美

ちよつと確認しよ。

直美、机のメモを取って確認する。机のメモは新しくなっている。

直美

これ、さっきのメモと違う。

麻希、沙弥加、翔子、直美の近くへ。

翔子

またわざわざ手書き？

麻希

……何ですかこれ。犯人中ではまだイベントを続けてるって事でしょうか。

翔子

って事は、頭のおかしいイベント会社の社員が犯人って可能性あり？

沙弥加

待った。ちよつといいすか。

沙弥加、メモを直美から受け取る。

直美

どうしたの？

沙弥加 このクセのある字。やっぱりこれあの子の字ですよ。泉敦子。

直美 ……ええ？

沙弥加 ホラ、文字全体が右上にはねてる感じのクセ。麻希も読んだでしょ。あの子の報告書とか

メモ書きとか。

麻希 ……あつ！確かに。え、じゃあ!!

麻希、急に部屋全体を緊張しながら見渡す。

直美 何？

麻希 あの、真弓から聞いたんですけど、今回のツアーを覚えてくれたのって、敦子ちゃんらし

いんです。

翔子 は？このツアーを泉敦子が？

麻希 はい。

沙弥加 テメー何でそういう事早く言わねえんだよ！

麻希 違うんですよ！あの、…真弓が皆には内緒にして欲しいって言ってる。

翔子 ああ…まあ、気持ちは分からないでもないけど。

沙弥加 本当かあ？

麻希 はい。

直美

でも何で泉敦子が真弓ちゃんの連絡先知ってるの？

沙弥加

真弓から連絡入れてたんじやないですか？前にケータイ教えた事あるんで。

直美

何で？

沙弥加

真弓、泉敦子を私達のグループに入れようとしてたんですよ。雑用任せたかったみたいですよ。

直美

えー真弓ちゃんが？

沙弥加

本人がそう言っていました。

翔子

ってか、今はそれどうでも良くね？

直美、沙弥加、麻希、翔子を見る。

翔子

要は泉敦子がこの件に関わってるかどうかって事でしょ。

沙弥加

いや職場でイジメられたからってここまでしないっしょ普通。

直美

そもそもイジメてないし。

翔子

いや、そうなんですけど、こういうのって本人がどう思うかじゃないですか。

直美

え、じゃ何、私が悪いっていうわけ？

翔子

違います違います！ああいうメンヘラっぽい人種はとにかく自分を正当化して被害妄想に走るって事です。

沙弥加

その上間違った正義感に浸ると。

直美

劳基署行ったり？

翔子

はい。

直美

うっわウザ。

翔子

だけじゃなくて、それ以上の暴走が無いとはいいい切れないんで。

麻希

だとしたら敦子ちゃんクロですよ。

沙弥加

何で？

麻希

この三つ目の、

涼子

あのさ！！

直美、麻希、沙弥加、翔子、涼子を見る。

涼子

誰か水持ってない？

直美

は？

涼子

手洗いたいの。

沙弥加

何すか急に。

涼子

急にじゃなくてさ、私触っちゃったじゃん、死体。

翔子

死体って……真弓ですよ？

涼子

いいからさ、無いのかつて聞いてんの!!

沙弥加

いや、ありませんよ。スマホまで無くなってるんですから。

涼子

もうホント最悪!!

直美

そのシーツの端ついで手拭けばいいじゃん。

涼子

絶対やだ。あー、もう何とかしてよ!!

翔子

あ、涼子さん。

涼子

何!!

翔子

確かトイレ使えましたよね。

涼子

翔子、ナイス!!

涼子、奥のドアへ移動。

翔子

あつ!! ちょっと待って下さい!! 一人になるの危ないかもです!

翔子、涼子の後を追う。ドア付近で立ち止まり、

翔子

ドア、気を付けて開けて下さい。

涼子

(声のみ)誰もいないよ。

翔子 あ…良かったです。

沙弥加 ……ちよつと直美さん、何なんすかアレ。

直美 いっぱいいっぱいなんじゃない？ああ見えてメンタル弱いから。

沙弥加 にしても死体はないんじゃないすか？

直美 まあ、こういう時頼りないのって信用無くすよね。

麻希 ですわね！！

直美 ……とりあえず涼子待とつか。

沙弥加、麻希、返事。シーンとした間。真弓の方を見た後、何となく目を合わせる三人。
涼子が奥から戻って来る。

涼子 あーやっと落ち着いた。

直美 涼子さ、皆だつて我慢してんだから一人でイライラするのやめてくれる？

涼子 そんな事言つたつて仕方ないじゃん。むしろこれでも我慢してるんだけど。

直美 あつそ。とりあえずあれでしょ？話は聞いてたんでしょ？

涼子 一応ね。

直美 じゃさっきの続きでさ、麻希ちゃんの考え聞かせて。

麻希 あ、はい。

涼子

その前にさ、その紙、何て書いてあるの？

直美、大きくため息をついて、翔子に読むようにジェスチャー。

翔子

えっと、三つ文章がありました。一つ目が、食料が欲しければイスの座れない場所を探せ」二つ目が、可能性にかけたいなら最も見落としがちな場所を探せ」で、三つ目が結末を変えたいなら死体に心からの懺悔を」です。

で、これを書いたのが泉敦子だとして、何で麻希ちゃんは彼女がクロだと思うの？

直美
麻希

三つ目の文章に「死体」って言葉が出てきてるんですよ。なので、この人も書いた時には死体が出ることを知っていたか、死体が出てしまったかのどちらかだと思うんですよね。ただ、どちらにせよこれを書いた敦子ちゃんは関わってるはずですよ。

翔子

確かに。

直美

じゃあ真弓ちゃんは泉敦子に殺された？

麻希

その可能性は高いと思います。

涼子

どうやって？

麻希

それは……。

全員、真弓の方を見る。

直美

真弓ちゃん、どうやって死んだわけ？

沙弥加

イスにうつ伏せになってましたね。何か寝てる感じで…。

直美

刺されてた？

沙弥加

それはちよつと…よく見てないんで。

直美

確認してみて。

沙弥加

はい!!

直美

どうやって殺されたのかが分かれば対策の立てようがあるでしょ。

沙弥加

ですね。…麻希。

麻希

私ですか?! 無理ですよ!!

沙弥加

こっぴどいのは下っ端の役目だろーが。

麻希

嫌ですよ。何で私なんですか。

沙弥加

下っ端だからつつてんだろ。早くしろよ。

麻希

ええ…。直美さん。

直美

まあね…。沙弥加ちゃん、翔子ちゃんと一緒に確かめて。

沙弥加

いや、ちよ待って下さいよ。何ですか。

直美

一番の友達だった麻希ちゃんじゃショック大き過ぎるでしょ。

沙弥加

こいつ、そんなんでもショックウケるようなタマじゃないですって。

直美

何でそんな事分かるの？

沙弥加 それは……。いや、麻希、ここはお前がやるべきだったの!!
直美 沙弥加ちゃん。……。私が二人に頼んでるんだけど。
沙弥加 ……分かりました。(翔子に)オメーもだかなな。
翔子 分かってんよ。

沙弥加と翔子、真弓に近づく。お互いに顔を見合わせる。覚悟して白いシーツをゆっくり上げる。(上半身が少し見えるくらい)

どう?

血は出てないですね。

えー、じゃあ何?

首を絞められたとか。

(二人の方に)どう? 跡とかある?

いや知りませんよ。そんなくつきり残ってるもんなんすか?
分かんないけどさ、一応確かめてよ。

涼子
翔子
直美
麻希
直美
沙弥加
直美

沙弥加、洪々真弓の首元を見る。

沙弥加
直美

特には無いです。…もういいですか？
うん。ありがと。

沙弥加、翔子シーツを元に戻す。(真弓の体が完全に隠れるように)

涼子

刺されたわけでも、首を絞められたんでもないなら、直接殺されたわけじゃないって事
でしょ？

翔子

毒の可能性ありますよね。真弓のペットボトルだけ睡眠薬じゃなくて、毒が入ってたとし
たら…。

涼子

ってことは一人目は誰でも良くて、結局六人共ターゲットって話じゃん。

翔子

そうなりますね。

涼子

私関係なくない!? 恨むんなら直美一人にしてよ!!

直美

何で私なのよ。一番いちいち文句言ってたの涼子でしょ。

涼子

私のは仕事をする上での話です。直美はどーでもいいような事でいつもつかかったた
じゃん。

直美

言い方がキツかったのは涼子の方じゃん。

涼子

そこは直美に言われたくないんだけど。

沙弥加

ちよつと落ち着いてくださいよ。二人が言い合いしたって仕方ないじゃないですか。

涼子

そう言うけどさ、元々はアンタが指導係としてしつかりしてなかったからこんな事になったんじゃないの？

沙弥加

マジでやめてもらっていいですか？

沙弥加と涼子、しばらく睨み合い、涼子が不貞腐れてイスへ移動する。

翔子

で、今は仮定ばかりで確証が何もなわけだけども、仮定が合ってたとして考えなきゃいけない事は？

麻希

：…敦子ちゃんが今、どこにいるのか、ですかね。

沙弥加

このペンション内にあるとか。それは無エか。

翔子

いや、充分考えられると思う。

直美

だとしたらこの板ってあの子が？

麻希、出入り口近くの板をもつ一度確認。振り返ってその場から奥の部屋の板も確認する。

麻希

沙弥加さん。

沙弥加

何？

麻希

敦子ちゃんの身長ってどのくらいでしたっけ？

沙弥加

私と同じくらいか、少し低いくらいじゃん。

麻希

だとしたら、これは真弓がやったと思います。

翔子

何で？

麻希

板の高さです。敦子ちゃんが行うには少し高いと思うんですね。私で丁度くらいなので、可能性があるとすれば真弓かなって。

直美

じゃあイベントの犯人役は真弓ちゃんだった？

麻希

私は違います。

翔子

私もです。

沙弥加

違います。

直美

私も。

直美、沙弥加、翔子、麻希、涼子を見る。涼子はそっぽを向いて反応しない。

直美

涼子さ、こんな時なんだから協力してよ。

翔子

まあ、涼子さんが犯人役じゃないのは確実でしょうから。真弓はおかしいなと感じつつも犯人役として指示に従ったんじゃないですかね。

麻希

で、監禁状態を作って一人目を殺した。

沙弥加

だとしたら残った私達はどやってことすつもりなんすかね。

翔子 このままの状態が続くなら飢え死にってところ？

沙弥加 マジか。

涼子 でもこのツアーって五日だけでしょ？そんなんで死ぬ？

翔子 いや、あの、考えたくはないんですけど。

涼子 何？

翔子 そもそもこのツアー自体が泉敦子の嘘だったとしたら一か月借りられてる場合もありますよ。

直美 いくらかかると思ってたの。普通出さないでしょ。

翔子 普通なら・・・はい。

沙弥加 ちよ待つて。真弓さ、イベント会社とか旅行代理店の人と話したんですよ。

翔子 今となつては分かんないじゃん。実際には泉敦子が窓口って事になってたのかも。

直美 もしかして、真弓ちゃんが最初に殺されたのって、そういう諸々の事情を知ってたから？

麻希 かもしれませんかね。
・・・もしかしたら、

翔子、急に動き出し、壁を隅々までゆっくり見る。

沙弥加 何やってんの？

翔子

イベントって形で私達の行動を制限したり、操作してるならわざわざ本人がリスク犯してまで近くに来ないかなって思うんだよね。

涼子

で？

翔子

監視カメラとかあるんじゃないかと思って。

直美

えー、それで私達の事見てたって事？

直美、立ち上がり監視カメラを探し始める。沙弥加、麻希も探し出す。

涼子

翔子さ、さっきから不安を煽るような事ばかり言ってるけど、ゲームのやり過ぎじゃない？毒とか監視カメラとか、有り得ないでしょ。

翔子

ですね。正直私も言ってるかどうかと思ってます。でも私の言ってることが違ったり考えすぎなら、私が恥ずかしい奴ってことで笑い話にすれば良いだけじゃないですか。

直美

それがさ、一概に考え過ぎとも言えないんだよね。

涼子

何かある？

直美

昨日、私、滅茶苦茶トラブってたじゃん？

涼子

部長に呼ばれてた時？

直美

うん。仕入れと在庫が合わない薬品があつてさ。

涼子

何？

直美

シアン化水素酸。

翔子

え、マジですか!!

直美

役員にも呼ばれた。私直接の担当じゃないのにさ。…勿論、今回の事と関係あるかどうかは分からないけど。

麻希

沙弥加

でももし関係あったとしたら、敦子ちゃんはかなり前から準備してたって事ですよね。オメーこの期に及んでまだ「ちゃん」とか言ってるじゃねーよ。

翔子

涼子

とりあえず監視カメラが無いなら無いで安心できるんで、探しませんか？
…まあね。

涼子も監視カメラを探し始める。壁を隅々まで見る。暫くはそれぞれの場所で。全員少し気だるそう。

沙弥加

しかし、人間こんな時でも腹は減るもんなんすね。

麻希

一人じゃないって安心感がありますからね。

直美

だね。流石に一人だったらそんなの感じてる余裕ないかな。

翔子

ただ、良い事なのか悪い事なのか…。

涼子

実際どのくらい食べてないんだろ。っていうかここに到着してからどのくらい経った？

翔子

寝てた時間がどのくらいに抑えますよね。しかも二回寝てますから。

直美

麻希

沙弥加

直美

この板を真弓ちゃん一人でやったとすると、かなり長い時間寝てたんじゃない？
一日は絶対過ぎてますよね。

何時間経過したなんてどーでもいつつの。私は今、死ぬ程腹減ってるって話。
それは皆同じでしょ。

再び、無言で監視カメラを探す六人。それでも何も見付からない。

沙弥加

あー立ちくらみ。ちょっと休憩します。

沙弥加、近くのイスに座る。

涼子

麻希

直美

麻希

直美

翔子

考えてみたら監視カメラなんて素人に見付けられるもんなの？

難しいかもしれないですけど、でもあると思うんですよね。

麻希ちゃんもそう思ってるんだ。

はい。これも三つ目の文章なんですけど、懺悔しろって指示は、どこかで見てるか聴いてないと確認出来ないのでから。

じゃあ盗聴器の可能性もあるわけか。

考えてみたら何で泉敦子はこんなメモ用意したんですかね。何か目的があるとか。

翔子、沙弥加、直美、麻希、机のメモに集まる。

直美

目的かあ…。

麻希

一つ目の食料がつていうのは、私達を飢え死にさせようとしてるなら矛盾してますよね。

翔子

二つ目の可能性云々つてやつも 外に出れる可能性」助かる可能性」って意味だね、きつと。

直美

じゃあ最後の結末を変えたいならつてやつは？

麻希

敦子ちゃんが私達を殺したいと思つていたとして、思い直してくれるんじゃないですか？

直美

だとしたら単純に殺したいだけじゃない？

翔子

わざわざ助かる道を用意しているわけですから多分。

涼子

ねエ！カメラ探すんじゃないの!!

麻希

あ、すみません。ちょっと待つて下さい。

直美

三つ目の解釈、私も同意見なんだけども、だつたらさつさと真弓ちゃんに向かつて謝ればいいんじゃない？

沙弥加

でも何故に真弓なんすかね。

翔子

会社を辞めさせられた自分と死体を重ねてるのかも。

直美

辞めさせたわけじゃないけどね。

翔子

あ、はい…。

直美　じゃ、とりあえず沙弥加ちゃんお願い。

沙弥加　いや、何で私なんですか。

直美　だって指導係だったんでしょ？

沙弥加　いや、自分結構仲良くしてたつもりなんすけど。

直美　仲良かったの？

沙弥加　そういうあれじゃなくてですね。

直美　とりあえずだからさ。さつきも確認するのに近付いたんだから大丈夫でしょ。

沙弥加　指導係だったのは麻希もなんですから、今度はコイツの番じゃないですかね。

直美　だから麻希ちゃんじゃ精神的にツライですよ。

沙弥加　自分だってキツイですよ。

直美　分かるけどさ、ここは上の者として動かなきゃいけないと思わない？

沙弥加　今、上の者もとか関係ありますか？こんな時は全員フラットでいいじゃないですか。

直美　こんな時だからこそリーダー決めて団結して行動すべきでしょ。

沙弥加　直美さんがリーダーなんすか？

直美　他に適任がいる？

沙弥加　じゃあ何かあつたら直美さんが責任取れるんですね？

直美　何責任って。

沙弥加　直美さんの指示に従って何かあつた時に責任取れるんですかって事です。

直美

責任とか考えてたら何も出来ないでしょ。それとも何？この場、沙弥加ちゃんが仕切れるの？

沙弥加、答えられず無言。

直美

可能性を潰していく為にはさ、沙弥加ちゃんの協力が必要なんだって。ね？

沙弥加

……はい。

沙弥加、麻希を見る。麻希、軽く頭を下げる。

沙弥加、分かりやすいくらい大きく溜め息。真弓の方へ近づく。

沙弥加

……すみませんでした。心から御詫びします。

麻希

あの、沙弥加さん。

沙弥加、無言で麻希の方を見る。

麻希

盗聴器だとしたら音声しか拾えないので大きい声じゃないと聞こえないと思います。後、音声拾えないカメラもあるので大きく動かないと分かりづらいかもしれません。

沙弥加
直美
テメエ、マジでいい加減にしろよ!!
沙弥加ちゃん。

沙弥加、直美を見る。無言。翔子の方を見る。

翔子
涼子
沙弥加
いや、私見られても困るし。
沙弥加さ、もう上司の命令だと思って割り切ってやったら?
……そっすね。

沙弥加、直美の前で土下座する。嫌味なくらい大きな声で。

沙弥加
本当にすみませんでした！心から御詫びします！

沙弥加、言い終わった後、立ち上がり大きく深呼吸する。後ろを振り返り、直美に、

沙弥加
直美
私、このグループ抜けますわ。正直前から思ってたんすよね。合わねーって。
好きにすれば。無事に帰れたらだけど。でもそれまではグループとして行動した方がいいんじゃない？

沙弥加、それには答えず、下手側のイスに座る。

麻希

これで何か動きありますかね。

直美

暫く様子を見よ。

涼子

じゃあカメラ探しはやめるのね？

麻希

あ、はい。っていうかまだやってたんですか。

直美

涼子って本当マイペースだね。

涼子

はいはい。

涼子、上手側のイスに座る。

翔子

でも…どうやるんですかね。

直美

何が？

翔子

スマホ無いんで伝達手段がないじゃないですか。どうやって助けてくれるのかなって。

直美

そういうば…。

麻希

ドアの向こうに敦子ちゃんが来て、釘抜きの場所を教えてくださいませんか？

涼子

っていうか、そもそもこれ計画したのが泉敦子ってのも確定じゃないんでしょう？

麻希

まあそうですね。

沙弥加

いやあ、これで敦子絡んでなかったら私キチガイですよ。死体に大声で謝ってるんですもんね。

涼子

沙弥加。

沙弥加、椅子に浅く腰掛け、足を伸ばす。全員沈黙。

麻希、立ち上がったテーブルの前へ。

麻希

…どれが真弓の飲んだやつですかね。

翔子

それじゃん？その手前のやつ。

麻希

これですよ。

麻希、真弓の飲んだペットボトルをテーブルの下へ置く。

麻希

…で、他のは睡眠薬が入っているとはいえ飲めないことはないですよ。

翔子

は？飲むの？

麻希

私、食べるのはまだ我慢できるんですけど…。

翔子

いや危ないでしょ。敦子がどこかに隠れてる可能性があるのに。

麻希

…ですよ。

麻希、前に自分が飲んだペットボトルを持ち、大きく溜息。

直美

…全員が飲まなきゃ大丈夫でしょ。誰か一人飲まなければいいんじゃない？
ねえ、沙弥加ちゃん。

沙弥加

直美

皆が起きるまで飲まず食わずで起きてろって言っんですか？
起きてるなんて言っていないでしょ。飲むなって言ってるだけで。

麻希

沙弥加

…わかりやすいやり方ですね。

直美

沙弥加

あれ？勘違いしてる？順番よ順番。私たちが起きたら沙弥加ちゃんが飲んでいいから。
だったら今度こそ麻希の番じゃないんですか？

直美

私がリーダーだからさ。さっき皆で決めたよね。

沙弥加

…な—んか？。（泉敦子の気持ちがわかる気がする）

直美

何？

沙弥加

いや何でもないです。

直美

納得してくれたってことでいい？

沙弥加

…はい。

直美

そ。

麻希

すみません。次は私が起きてますから。…だから何かあったらちゃんとお越してくださいね。

直美、ペットボトルを手にして飲む。涼子、翔子、麻希も続く。

心の底から安堵したような溜息。4人、体をゆっくり伸ばし寝る体勢になる。

直美

じゃああととはよろしく。

暗転。時計の音。だんだん大きく。

一定時間間かせたあと、ゆっくりフエードアウト。明かりがつく。

沙弥加が起きている。直美、涼子、翔子、麻希それぞれのタイミングで起きる。

4人、意識がはつきりした瞬間、周りを見渡したり、体の無事を確認したりする。

涼子

変わったところは？

翔子

ありませんね。

直美

(沙弥加に)何もなかった？

沙弥加

はい。

翔子　　ずっと起きてたんだ。

沙弥加　いや、寝たよ。10分くらい。

直美　　その10分の間に泉敦子が声かけてたとか。

沙弥加　ないですよ。熟睡できたわけじゃないですし、ドアの近くで寝たんですから。

翔子　　じゃあ謝って結末変えるってどういうこと？

沙弥加　さあ？…とりあえず私休んでいいですよ。

直美　　ちよつと待つて。もう少し様子みてからにしてもらえる。

沙弥加、大きく溜息。だが反論する気力も無い様子。

全員目に見えて疲れている。気力を振り絞ってテーブルのメモに近づく麻希と翔子。

直美は頭をおさえてぐったりしている。

涼子は腕や首を搔いた後、ぐったりして横になる。

麻希　　他に解釈の仕方あると思います？

翔子　　ないと思うけど…。謝り方が間違ってるのか、たまたまタイミング的に見てなかったか…。

なんにせよ3つ目の文章に「こだわってる場合じゃないかもね」。

麻希　　ですね。食料が欲しければ椅子の座れない場所を探せ」。…椅子に座れない場所なんて

あります？

沙弥加

私、マジ限界だからさ、そういうウザい話はもつと静かにやってくれろ？

麻希

…すみません。

翔子

椅子なんてどんな形してたって座れないことないしね。

麻希、きつそうに立ち上がり近くの椅子を見たり座ったりする。

沙弥加

あーうぜえなー！

直美

そんな言い方しなくていいでしょ。麻希ちゃんだって一生懸命考えてくれてるんだから。っていうかウザさで言えば涼子の方がウザイでしょ。

涼子

しょうがないじゃん痒いんだから。

翔子

あー。とうとう蕁麻疹ですか？

涼子

(イラっとして)何？

翔子

いえ、別に…。

麻希

でも考えてみたら椅子の周りなんて探すまでもないですよ。ぱっと見ただけでもなにも無いのはわかりますし…。

麻希、言い途中で何かに気づく。ソファーをじっと見る。

麻希　もしかして…あの、ちょっとすみません。

麻希、ソファーに近づき座っていた直美をどかす。

直美　え、何？

麻希　ソファーひっくり返したいんですけど手伝ってもらえますか？
翔子　あ、そういうこと？

翔子言いながらソファーの方へ移動。

麻希と翔子、両端を持ちソファーをひっくり返す。

沙弥加の鞆が出てくる。

麻希　やっぱり。ありました。

沙弥加　え？それ私のリュックじゃん？

麻希、リュックを持とうとした時、

沙弥加　触んなに

沙弥加、大声で怒鳴りダッシュでリュックのもとへ。

麻希、びくつとして固まる。沙也加、リュックを持ち上げ、他の人たちから離れたところに座る。リュックを開け、中身を取り出す。手にはお菓子と飲み物。
全員がパツと明るくなる。

直美

何とか食料の確保が出来て一安心ってところかな。問題は助けが来るまでの間、どうやって持たせるかだけど……配分方法決めないかね。

沙弥加

ちよ、何ドや顔で仕切ってんすか。

直美

は？

沙弥加

これ私のなんですけど。分かります？私のリュックで、私が買ったお菓子なんですけど。

直美

こんな時に何言ってんの？皆ツライ思いしてるんだからさ。

沙弥加

とか言ってそのお菓子って共有じゃない」とか言い出さないで下さいよ？従う気ないんで。

直美

あのさ、私がリーダーって納得したよね？

沙弥加

もう状況が違っじゃないですか。文句あるなら直美さんの分け前無いと思って下さいね。

直美

はあ？そんな勝手が許されると思ってるわけ？

沙弥加

さつきまで直美さんも勝手してたっしょ。こっぴどい空気にしたのは自業自得って事で。（麻

希に）オメーもだかなな。

麻希

はい？

沙弥加

オメーも優先順位は低いから。

麻希

え、だって私は、

沙弥加

ウゼーよ。聞く気ねえから黙れ。

沙弥加、お菓子をリュックに戻し、立ち上がる。

沙弥加

さてと。ちよ、そこいつか。

沙弥加、ソファーに近付き座っていた直美を退かせた後、座る。

沙弥加

あー、嬉しいは嬉しいけどこれで寝れなくなっただな。私が寝たらどっかの誰かさんが仕切り出すだろうし。

翔子

私見張つとくからさ、任して。

沙弥加

いやいやいや、相方みたいな勢いマジ無いから。

翔子

え？

沙弥加

さつきさ、私が色々やらされてる時にフォローも何も無かったクセによくそのテンションで来れんな。引くって普通に。

翔子

いや違うじゃん。さつきのほ、

沙弥加

うっせーな。

直美

：：で、どうすんのそれ。独り占めするつもり？

沙弥加

だから独り占めとかそういう考えがおかしいんですって。それ私んだし。：：ただ、まあ、流石に一人だけで食べるつもりはないですよ。誰にどれくらいあげようかなあとは思ってます。

沙弥加、再びリュックの中身を確認。

沙弥加

あ、こんなの買ったつけ。

沙弥加、駄菓子ジュースを取り出して飲む。

沙弥加

やっぱ、うっめ!!

沙弥加、周りを見渡して、

沙弥加

涼子さん。

涼子

何？

沙弥加

飲みます？

涼子

え？いいの？

沙弥加

はい。

涼子、ジュースを受け取って飲む。ホッとした表情に変わる。

沙弥加

：さつき私が謝罪強制させられた時、上司命令だと思って割り切れみたいなフォローしてくれただやないすか。やっぱああいうの嬉しいっすよね。

翔子

ふざけんなよ。日頃仕事でどんだけフォローしてると思ってたんだよ。

沙弥加

はい、翔子アウトー。後回しにすっからそのつもりで。つってもジュースそんなねーけど。

直美

私達は？

沙弥加

はい？

直美

私達はどうすればいいわけ？

沙弥加

え、何か欲しいんすか？

直美、イライラを抑えながら頷く。

沙弥加

そうっすねー。ま、思いつくまで待っててもらっていいすか。涼子さん、こっち座りません？

涼子、ソファに座る。

沙弥加

涼子さん、甘いもの苦手でしたよね。

涼子

でも今は贅沢言ってもらえないし……。

沙弥加

煎餅は？

涼子

大丈夫。

沙弥加

これどうですか。

涼子

ありがとう。

沙弥加、涼子に煎餅を渡し、自分は好きなお菓子を食べる。涼子、煎餅を食べる。

沙弥加

やつぱは生きるのに甘いものとしよっぱいものって欠かせないんですね。

涼子

ホント。ちよつと体に力戻った気がする。

沙弥加

あ、そうだ！直美さん、こつししましょう。

直美

……何？

沙弥加

真弓に土下座して謝って下さいよ。

直美

は？

沙弥加

謝ったのが私なんでダメだったかもしれないじゃないですか。キーワード的には直美さんが一番可能性あると思うんです。

直美、無言。

沙弥加

可能性潰していくには協力が必要だと思っくんすよねー。ってか食べ物欲しけりややってくださいよ。

直美

土下座しろって？

沙弥加、答えない。直美、無言で直美に近付き、ゆっくり膝をつく。

直美

…すみませんでした。

沙弥加

声ちっさ！

直美、沙弥加を睨む。

沙弥加

こっち見てないで早くして下さい。

直美

…すみませんでした！

沙弥加 あれ、一文目って何て書いてありましたっけ。

沙弥加、メモを見て

沙弥加 心からの懺悔を「らしいです。そんなんじゃないくて何回も連続で謝った方が良くないですか。

直美、何かを考えている様子。暫くして大きく深呼吸。

直美 すみませんでした！すみませんでした！すみませんでした！すみませんでした！

直美の息が続くまで（少なくとも五回以上）謝り続ける。
シーンとした間、直美ゆっくり立ち上がる。

直美 これでいい？

沙弥加 どうすかね。ま、いいんじゃないですか？

直美 じゃあ、

沙弥加 ただもう少し様子見しようよ。何か変化あるかもしれないんで。

翔子 お前何様だよ！

直美

いいから！…様子をみるのね。

直美、下手の椅子に座る。翔子、直美に近づく。

麻希、なんとなく中間に立ったまま。

沙弥加

で、麻希はどうすんの。

麻希

…何がですか？

沙弥加

私と直美さん、どっちにつくわけ？そんな中途半端なところに立ってるけどさ。

麻希

どっちって、そんなの選べませんよ。

沙弥加

お前いつもそれだな。上手く生きてるつもりか知んねーけど性根の悪さバレバレだかん

な？

麻希

私は別に…。

麻希、黙ってしまう。

しばらく言葉を待っていた沙弥加、溜息をついて立ち上がる。

リュックの中のお菓子を適当に選び袋ごと持って直美の近くに。

沙弥加

これでいいですか。

直美

：うん。

沙弥加

誰とどういう風に分けるかは勝手に決めて下さい。

直美、近くにいた翔子を見た後麻希を見る。シーンとした間。

沙弥加バツとドアの方を見る。麻希もドアを見て振り返る。

沙弥加と麻希の目が合う。

沙弥加

今、音したよね。

麻希

ガサッて。

翔子

嘘：

沙弥加

外、外：

全員ドアの近くへ走る。同時に

沙弥加

敦子：そこいる？

涼子

敦子：

直美

敦子ちゃん：敦子ちゃん：

麻希

敦子ちゃん、麻希だけど：

翔子
ねえ、開けてくれない。

返事はない。

翔子
え、違う人？

沙弥加
誰でもいいよ！もしもーしすみませーん。

直美
助けて下さい。ドアが開かないんです。

涼子
聞こえますか？お願いします。

麻希
助けて下さい。

翔子
ここに人が居るんです。

沙弥加
すみません、誰かいませんか？もしも？もしも？もしもーし誰かいませんか？

直美、何かに気付き、沙弥加を止める。

沙弥加
何すか。

直美
これ…風じゃない？

沙弥加
え？

直美
ほら、窓の音と同じタイミングで音がしてる。

全員、窓とドアの向こうの音を聞き比べる。

沙弥加

いや違っしょ。絶対誰がいるって。もしもーしー聞こえますかー！ドアが開かないんで

す！助けて下さいーもしもーしーもしもーしー

涼子

あんまり意地はられると私達もツライからさ。

沙弥加

いやだっ！絶対足音でしたっ！もっと大きい声で呼べば気付いてくれるかも！

涼子

沙弥加。

沙弥加

！あーもー何だよ。マジム力つくなー！

沙弥加

沙弥加、イライラしながらソファーに戻る。座った途端、
いつてー何！

翔子

沙弥加、ソファーの背もたれと座る部分の間に手を入れる。
出てきたのは翔子のスマホ。

やっぱー！

翔子、走って沙弥加の手からスマホを奪う

沙弥加

何やっぱりって。

翔子

一つ目の食料がちゃんとあつたんだから可能性がかけられるものだってあるはずでしょ。

直美

そこが見落としがちな場所？

麻希

食料があつた訳ですから、更に何かあるとは確かに考えないかもしれないですね。

沙弥加

んなこたあいって！早く電話してよ。

翔子、沙弥加の肩を押して突き離す。

翔子

何であんたの言うこと聞かなきゃなんないわけ？

沙弥加

は？

翔子

はい、立場ぎやくてゝん。

沙弥加

オメーバカじゃねえの？早く助け呼んで帰りたいじゃん。

翔子

バカはそつちしょ。もう慌てることないし。帰った後の関係確立しとかなきゃさ。

沙弥加

はあ？

翔子

あんたさ、こんだけ直美さんに喧嘩売ったんだから仕事辞めんだよね。

沙弥加

だから何？

翔子

私ナンバー2にしてもらえませんか。今後は私が相方って事で。

沙弥加

マジか。オメー本当はそんなもんにこだわってたのかよ。

翔子

私は会社辞めるつもりねーし。あんたと違って感情だけで生きてないからさ。

…直美さん、どうですか。

直美

…まあいいけど。

翔子

じゃあ早速役に立たないとですね。

翔子、沙弥加と向かい合う。

翔子

って事でさ、直美さんに謝んなよ。

沙弥加

は？

翔子

助け呼んで欲しいんですよ。だったら言う通りにしたら。

沙弥加

何故にこのタイミングで謝んの。

翔子

あんだだけ失礼な事したんだからさ、やっぱこのままにしておけないでしょ。

直美さんがスッキリするまで覚悟してね。

沙弥加

いやおかしいから。それなら早く助けを呼んだ方が直美さんも嬉しいんじゃないの。

翔子

どうせ戻ったらシレッと居なくなつてそれつきりになるの目に見えてるんで。

この場でケジメつけてもらわないと。ですよね、直美さん。

直美

まあね。ただ謝ってもらおう前に、

翔子

大丈夫です。ここは仕切らせてください。キッチリ謝らせますから。

直美

いや、そうじゃなくてさ。

翔子

大丈夫ですって。(沙也加に)さ、早く。

沙弥加

私が素直に謝ると思ってる。

翔子

謝るっしょ。だって沙弥加さ、帰りたいっつーより、とにかく早くこの状況から逃げたいんですよ？

沙弥加

は、意味わかんねーんだけど。

翔子

自覚があるかどうかは知らないけどさ。あんた閉所恐怖症じゃない？それが単純に密室空間が嫌いなのか。車とか不必要にテンション高かったじゃん。あれって怖さの裏返しだと思っただよね。

沙弥加

私が

翔子

ああ、いい、いい。そこ議論するつもりないから。要は早く出たいなら謝りなつて事。どうする？

沙弥加

オメー、マジム力つくな。

翔子

ウケる。答えになつてねーし。私は直美さんに謝るかどうかが聞いてんの。

沙弥加、下を向いて黙る。

翔子 無言でニガキかよ。言つとくけどちゃんと謝るまでぜってー電話しないからそのつもりで。そこまで追い詰めなくてもいいよ。

直美 翔子 マジっすか。どうせ本心から謝ることは無いんですから形だけでも。

直美 それはいいからさ食べ物と飲み物もらおう？

翔子 え？

直美 いいから。

翔子 はい…。(沙弥加に)だつてさ。あんたとしても謝るよりはマシでしょ？

沙弥加、動かない。

翔子 また無言かよ。じゃあいいや。(机のペットボトルを指して)水飲んで一緒に寝ましようか。

沙弥加、リュックを持ち直す。

翔子 何？

沙弥加 渡したらすぐ電話しろよ。

翔子 いやいや食べて落ち着いたらでしょ。

沙弥加 食べて落ち着いたら電話しろよ！

翔子

はいはい。

沙弥加、リュックを渡そうとする。

涼子

待った！

涼子の声に、沙弥加、動きが止まる。

沙弥加

何すか涼子さん。もう食べ物とかいいんで早くここ出ましようよ。

涼子

翔子さ、スマホの電源つけてよ。

翔子

はい？

涼子

そしたら画面こっち見せて。

直美

あー、もう…。

翔子

(直美の反応に不安になる)え…。

翔子、スマホの電源を入れようとするが付かない。

涼子

あんたここにきて充電しようとしてたよね。でもすぐ回収されちゃったじゃん？

沙弥加

え、嘘でしょ。マジで？

翔子、固まって動かない。

沙弥加、翔子の近くへ移動。電源ボタンを確認して押させる。
スマホは付かない。

沙弥加

何だよこれ。翔子、おい！

直美

だからさっさと食料の確保しときや良かったのに。

沙弥加

いやおかしいって。ちゃんと押してんのかよ！

翔子

押してるって！

沙弥加

貸してみ！

翔子

自分でやるし！

沙弥加

翔子、沙弥加に背中を向けて、再度電源ボタンを押すが、付かない。
翔子の様子に電源が付かないことを悟る沙弥加。

なんだよそれ。じゃあどうすんだよ……翔子！どうすんだって！

翔子、動けない。

沙弥加
オメーマジ使えねえーなニ

沙弥加、翔子突き飛ばす。倒れる翔子。

沙弥加
ふざけんなよ、クソツ！

沙弥加、イライラしながら翔子の足を蹴る。

麻希
これ……可能性がなくなっただけのことですか？

翔子、倒れたまま直美の方へ。

翔子
直美さん、あの……。

直美、立ち上がり翔子を見下ろす。

直美

翔子

直美

翔子

直美

翔子

直美

翔子

直美

翔子

直美

翔子

直美

翔子

直美

翔子ちゃんさ。

はい…。

ここに来てから 私優秀です」アピール凄いんだけど、結構やる事ズレてるよね。

え…。

それとさ、スマホ見つかったとき、主導権握れるのにナンバー2にしてくれて…自分じや何も出来ませんって言うてるのと同じじゃん。

いや、それは、

ナンバー2にはしてあげるよ？ただし、役に立つならね。

はい、きつとどつかに充電器があるはずです！そしたらこっちのものじゃないですか！

うん。だから見つかったら言うって。

え、あの、直美さんも一緒に探してもらえないんですか…？

何で？

何でって…。

充電器見つかって、スマホ使えるようになって初めて役にたつって言えるわけでしょ？

でも、

どうせその時には私に頼らなきゃいけないの分かったし、なんで疲れることしなきゃなんないわけ？

翔子、うなだれる。直美、ソファへ移動しようとする。
沙弥加急いでリュックを持ち、上手へ移動。

沙弥加

これもう私んだからそのつもりで

直美、ソファへ。

直美

・・・どいてくれる？

涼子、少し移動し、直美の座るスペースをつくる。直美、できたスペース以上の幅を確保しながらソファに座る。涼子、痒いのか腕や首を掻く。シーンとした間。

麻希

もう三つ目の文章にかけるしかないですかね。

直美

それしかないか・・・。

直美、メモを取り読む。

直美

結末を変えたいなら死体に心からの懺悔を……。やっぱりこういうの苦手だわ。どうする、

二手に別れる？文章の解読する班と、釘抜きとかそういうの徹底的に探す班と。

ですわね。

麻希

直美

……翔子ちゃん、前言撤回する。釘抜きとか充電器探すからさ、これの解読して。

翔子

……はい。

直美

（涼子と沙弥加に）二人もさ食べて飲んで回復したんでしょ？手伝って。

涼子、何も言わず首を掻いている。

沙弥加、リュックを握ったまま動かない。

直美

リュック持ったまんまでいいから。何だったらこれも返すし。

直美、お菓子を沙弥加に返す。

直美

だから探すの手伝って。

沙弥加

……はい。

涼子、体を掻いている。直美、涼子を見て、

直美

ねえ、搔くのやめてくんない？それ見るとスゴイイライラするんだよね。

涼子、無言。

直美

聞いてる？搔くのやめてくれって言ってるんだけど。

涼子

うっさいなあ。私だって好きで搔いてるわけじゃないし。

直美

動く気ないならせめて邪魔しないでくれる？奥にでも行つて。

涼子

別に邪魔なんかしてないでしょ？

直美

私がイラつくんだって！

涼子

また直美が仕切ってたんだ。どんだけ威張りたいの。

直美

あんたさあ、自分だけがツライ思いしてると思ってる？皆必死に我慢して耐えてんだよね。

涼子

だから私にも我慢しろって……一々指図しないでよ！そもそもさ、どうせ何したって変わらないって……

直美

は？

涼子

だってそうでしょ？こんだけやって何の進展も無いんだからさ。泉敦子は元々私達を許す

直美

気なかつたってことじゃん！動くだけ無駄だって。

涼子

あんた本当最悪。

直美

最悪なのはそっちでしょ？全部直美のせいなんだから。

直美

それは涼子だつて。

涼子

心の中じゃ皆思つてゐるつて(三)周りに)ねえ？怖くて言えないだけだよね？

直美

逆じゃん？それを言うなら涼子でしょ。すぐイライラするし協調性ないし。

なんだかんだ言つて一番お荷物なのあんたじゃない？

涼子

よく平気でそういう事が言えるよね。決めつけが凄いいし、押しつけも凄いいし。だから男出来ても長続きしないんだよ。

その言葉に一瞬シーンとなる。しばらくして直美、笑う。

直美

あんま笑わせないでよ。こつちは何も食べてないんだからさ。

涼子

何がおかしいわけ。

直美

そりやおかしいでしょ。え、長続きしない？私が？……まあ確かにそうかもね。

…でも涼子よりマシじゃない？

直美、ソファアに座る。

直美

ねえ、私さ、皆に嘘ついちゃったんだよね。

麻希

嘘？

涼子、体を搔く。

直美

搔くなつて、イラつくから!!・・・さっき涼子が昔に襲われた事あるって話したでしょ？私が丁度電話して、着信音にビビッて逃げたって。あれ嘘でさ、本当は着信音にビビッて逃げたわけじゃないんだよね

麻希

無事だったんですよね？

直美

うん、無事無事!!だって逃げたのは嘘じゃないし。

麻希

え、どういふ事ですか？

涼子

もう分かったから！奥に行ってる。

涼子、立ち上がり奥に移動する途中、直美が続ける。

直美

私が電話した時に襲われてたのは本当だね。涼子は助けを求めて電話に出たわけよ。必死に抵抗しながらだったから何言ってるか分からなかったんだけどさ。そしたら服破く音が聞こえて。ビリビリって。私もヤバイなって思つて涼子!って叫んだら悲鳴が聞こえるのよ。・・・男の。

沙弥加

(あまりにも意外で)・・・はい？

直美

男の「わ!」って声が聞こえて、気持ち悪リイ!」って去つてったわけ。ほら、荨麻疹で肌

搔きすぎて傷だらけなのよ、この子。でもさ、犯罪犯してまでやろうとしてる男がよ!!
女の胸見て引くってあり得くない!! どんだけ汚いんだよって話でしょ。なのに今度は襲
つてきたら刺してやるとか言ってナイフ買つてんのよ? 無い無い! 今度なんか無いって。絶
対男の方がトラウマになってるから!!

直美、小馬鹿にした笑い。涼子、ポーチからゆっくりナイフを出す。

直美 そんな涼子に男がどーのこーの言われたくないし。マジウケるんですけど。

涼子 私だって好きで搔いてるわけじゃないって言ってるじゃん。

直美 そりゃ好き好んで男引かせる胸にならないでしょ。

涼子 人の気持ちも分からないなんて、人として終わってるわ。

直美 あっそ。二十代で女として終わってるより百倍マシだけだね。

直美、高笑い。涼子ナイフを手近付く。沙弥加、その事に気付き、

沙弥加 直美さん。

直美 え?

その瞬間、涼子が直美の背中を刺す。何が起ったのか分からない直美。徐々に痛みが襲ってくる。

直美
何？涼子？

涼子
誰が女として終わってるって？

直美
涼子ってば、ちよつと…。

涼子
ずっとそういう目で見てたんだ！！

涼子、ナイフをそのまま深く刺す。

直美
痛っ！！

直美、痛みにソファーから立ち上がり、涼子から逃げる。後を追う涼子。

直美、振り返り手を前に出して距離を取ろうとする。

直美
何考えてんのよ！落ち着いて！！冗談じゃん！！

涼子、出された手を切りつける。痛みに手を引っ込める直美。

涼子

バカにしてたんでしょ。仲良いフリしてさ、心の中じゃバカにして笑ってたんでしょ!!

涼子、ナイフを振り回す。直美、麻希と翔子の方へ逃げる。

麻希と翔子、背中に回られないように自ら壁際へ。手で直美が近付くのをガードする。
ゆっくり近づく涼子。

直美

ちよつと助けてよ。誰か涼子止めて!

麻希

なんでこつちなんですか!! 私じゃ無理ですって!!

直美

誰でもいいから! 翔子ちゃん!!

翔子

いやいや無理ですよ!!

直美

役に立つてくれるんでしょ!! 守つてよ!!

直美

直美、翔子に懇願。涼子、直美の背中を切りつける。痛みにもうすぐまる直美。そのまま上手の沙弥加の方へ転がりながら移動。

沙弥加、直美の移動に合わせて逃げるようにセンター奥へ。涼子、直美の後を追う上手へ。

あんた達……守りなさいよ! 私のおかげでしょ!! 私が仕切ってきたから職場だつて居場所があったんでしょ!! あんた達の為に私がどれだけ苦労したか分かってんの!! 私のお

涼子

直美

涼子

かげじゃん!! 私のおかげでやってこれたんじゃん!! 守りなさいよ……守りなさいよ!!
うっさいな。大声出されるとイラつくから止めて。

私がいなくなったらどうすんの? 困るのあんた達だよ!! どれだけ居場所作るのに苦労
したか知らないでしょ!! 全部私のおかげなんだから!!

イラつくって言うてんじゃん!!

涼子、直美のお腹を刺す。痛みに苦しそうな声を上げる直美。

直美

守りなさいよ早く!! 涼子止めなさいよ!!

直美、力を振り絞って涼子を押して離れる。倒れる涼子。

直美、上手奥へ逃げようとするが力が入らず倒れる。

涼子、倒れている直美の足を刺す。直美の悲鳴。

直美

沙弥加!! 翔子!! 仕事でどんだけ庇ってきたと思ってんの!! どんだけ私に助けられたと
思ってたの?! ねえ!!

涼子、起き上がり、直美の肩を刺す。

直美 麻希ちゃん助けて!! さっきだつて味方してあげたでしょ? だから!!
麻希 すみません!! 私無理です!!

涼子、ナイフを抜いて再度刺す。

直美 許さないから。絶対あんた達のこと許さないから。絶対許さないから!! 人として終わつてんの、あんた達でしょ!!

涼子、直美を刺す。直美、その手を掴んで、

直美 何その顔。やっぱり色々終わってんじゃん。肌ブス女。

涼子、直美を何度も刺す。直美の悲鳴。次第に静かになっていく。
直美、動かなくなる。荒い呼吸の涼子。

沙弥加 涼子さん……直美さんは、
涼子 見てみる?

沙弥加　　いやいいつす。・・・殺したんですか？

涼子　　だから？

沙弥加　　いえ、別に・・・。

涼子、沙弥加に近付く。沙弥加怖がりながらも刺激しないようにその場に留まる。

涼子　　酷いと思わない？絶対内緒にしてくれて約束したんだよ？行きたくもないレストラン

でご飯まで奢つてさ。

沙弥加　　まあ、・・・酷いつすね。

涼子　　でしょ？でもさ、

涼子、沙弥加のお腹を刺す。

涼子　　あんたも同罪じゃない？

沙弥加　　ちよ、何やってんすか。

涼子　　男の方が悲鳴上げたって聞いた時、ちょっと笑ったよね。

沙弥加　　笑ってませんよ。

涼子　　半笑いで「はい？」とか言ったじゃん。

涼子、ナイフを抜こうとする。

沙弥加

涼子さん、抜くのはヤバいです。そのままにしてください。

沙弥加、涼子の手を押さえてナイフを抜かせないようにする。

涼子、ナイフを上下に動かして抜こうとする。沙弥加の悲鳴。涼子、何とかナイフを抜く。
沙弥加、お腹を押さえてうずくまる。

沙弥加

すいません！もう止めて下さい！！

涼子

謝るって事はやっぱり笑ったんじゃん。

沙弥加

違うんです、すいません！！

涼子

笑ったんじゃん！！

涼子、沙弥加の背中を刺す。沙弥加の悲鳴。涼子、ナイフを刺したまま、

涼子

私だって好きで搔いてるわけじゃないって何度も言ってるよね！！仕方ないじゃん！！あんな痒いの我慢出来んの？！出来んなら痛いのも我慢出来るよね。してみなさいよ！！

涼子、何度も沙弥加を刺す。沙弥加の悲鳴が小さくなり、動かなくなる。

涼子の呼吸だけが聞こえる。麻希、涼子と翔子を見る。少しだけ位置を後ろに下げて、

麻希

翔子さん！

翔子

……え？

涼子

……翔子？何かしようとした？

翔子

別に何も！！

涼子

ああ、あんたもバカにしてたんだ。

翔子

いや、してないですしてないです！！

涼子

馬鹿にしてんですよ。

涼子、翔子の方へ移動。

翔子

してないですって！ちよ、こつち来ないで下さい！！

翔子、上手へ移動。麻希、更に二人から遠い位置へ移動。

翔子

麻希、あんたも何か言つてよ!! (涼子に) 涼子さん落ち着いてください。おかしいですってこんなのに! 何考えてんですか!!

涼子

何で私ばかり責められなきゃなんないの? あんた達がバカにして笑うからいけないんですよ?

翔子

だから笑ってないって言ってるじゃないですか! いい加減にして下さいよ!!

涼子

嘘でしょ、どうせ!!

涼子、翔子を刺そうとする。翔子、涼子の手を押さえる。

翔子

やめて下さいって。何してるか分かってるんですか!! 麻希、助けてよ力貸して!!

涼子

あんた達グルなの!! 二人して笑ってたんだ!!

翔子

どうすれば信じてくれるんですか!! とにかく涼子さん一旦離れて!! 涼子さん!! ……涼子さん!!

翔子、渾身の力を込めて涼子突き飛ばす。ナイフは翔子の手に。

涼子、翔子に近付いて、翔子の頭を叩く。

涼子

何。一人じゃ何も出来ないクセにさ。あんなにバカにする資格あるの? っていうか、役立

たずの自覚ある？

涼子、再び翔子の頭を叩く。

涼子
ナイフ取ってどうするつもり？どうせ何も出来ないんでしょ？役立たずだもんね。役立たず!!

涼子、翔子の髪を掴む。

涼子
返しなさいよ。あんたが持つてたって仕方ないでしょ。私が楽にしてあげるからさ。返しなさいよ。・・・返しなさいよ!!

涼子、翔子の髪を掴んだまま、もう片手でナイフを取ろうとする。

涼子、役立たず」を連発する。我慢の限界になった翔子。大声を上げた後、涼子を刺す。動きが止まる涼子。

翔子
私は役立たずじゃないし。

涼子、ゆっくり倒れる。倒れた後、少し痙攣。やがて完璧に動きが止まる。

翔子
……涼子さん？……涼子さん。

翔子、涼子の体を揺する。反応は返ってこない。

翔子
どうしよう麻希。どうしようどうすればいい!!

麻希
翔子さん、一旦落ち着いて下さい!!

私、人殺しちゃったよ!!

翔子
翔子さん!!……翔子さん、聞こえますか？

……うん……。

麻希
不可抗力です。翔子さんが悪いわけじゃありません。仕方がなかったんです。

翔子
……そうだよね。仕方なかったよね。

麻希
大丈夫です。私は翔子さんの味方ですから。

翔子
本当？

麻希
勿論です。ここに来て一緒に謎解きしたの私と翔子さんじゃないですか。

翔子
そうだよね。一緒に謎解きしたよね。皆は見てるだけだったし。

麻希
はい。ですから私は翔子さんの味方です。

翔子

：：うん：：。

麻希

それで、まずナイフ置きませんか？

翔子

え!!

麻希

いやあの、危ないじゃないですか。まずはナイフ置いてお互いに落ち着いてから今後どうするか考えましょう。

翔子

私捕まる!!

麻希

大丈夫です。二人で捕まらない方法を考えましょう。：：ですからナイフ置いてもらって

翔子

でもいいですか？

麻希

でも何か、手が震えて：：。

翔子

：：分かりました。あの、私、そっち行きますね。うん：：。

麻希、翔子から少し離れた場所まで移動。

翔子

どうすればいい？ナイフどつか投げればいい？

麻希

待って下さい。まず、刃先がこっち向いてるの怖いんで、自分の方に向けてもらっていいですか？

翔子、両手でナイフを掴み、刃先を自分の方に向ける。

翔子
こう？

麻希
はい。で、そのままテーブルの上に置いて下さい。あ、視線は私を見たままで。

麻希
翔子、麻希の方を見ながらナイフをテーブルの上に置く。
じゃ、そのまま少し下がって下さい。

翔子、少し下がる。麻希、下がったのを確認してから前へ進む。
現状でナイフに近いのは麻希。

麻希
大丈夫です。状況を考えれば正当防衛が成立しますから。何の問題ありません。
翔子
だよ。正当防衛だよ。

はい。ですから大丈夫です。苦しくないですか？ちよつと深呼吸した方がいいかもですね。

翔子
翔子言われた通り深呼吸する。

吸って吐いて、再度吸った瞬間、麻希がテーブルのナイフを取って下手に移動。

翔子 え、何？麻希、何してんの？

麻希 一応です。一応念の為。

翔子 何念の為って。

麻希 翔子さん冷静じゃないので。ナイフは私が持ってた方が安心だと思うんですよ。

翔子 は、何それ意味分かんない。何、安心って。

麻希 そんなに気にする事ないじゃないですか。念の為ですって。

翔子 言ってる事おかしいじゃん、何、急に……え、一人だけ生き残るつもり？

麻希 はい？

翔子 はいじゃねえよ。いざとなった時、リュックの中身独り占めするつもりだろ！

麻希 しませんよ。何ですかそれ。

翔子 とぼけんな！食料独り占めしてお前だけ生き残るつもりだろ！

麻希 もう何なんですか急に！！そんな事しませんって。本当にこれはとりあえずですから！

翔子 ふざけんな。独り占めなんかさせないから。っていうかそつちがそのつもりなら、

翔子、麻希の方へ移動。

麻希 ちよつと二つち来ないで下さい！

翔子 生き残るのは私だから。あんた殺しても私が生き残るから！！

麻希、ナイフを前に出すが翔子、麻希の首を絞める。
そのまま体勢を崩し、翔子、馬乗りになって麻希の首を絞める。

麻希

翔子

麻希

翔子さん、止めて下さい!!

死ぬならお前が死ね!!

止めて下さい!!

麻希、ナイフを横に振ると、ナイフが翔子の首を掠める。

翔子、麻希の首から手を離し、自分の首を押さえる。

翔子、麻希から離れ、下手側の壁に縋るように移動。声にならないが叫び声を上げていく。喉に血が溜まるのか、苦しそうに咳込む。

翔子、振り返り、麻希に助けを麻希に助けるように手を差し出す。

麻希、動かない。翔子、そのまま倒れ動かなくなる。

麻希

……翔子さん？

返事はない。麻希、四つの死体を見渡す。頭を押さえ、冷静になろうとする。ソファへ

移動。頭を抱えてうずくまる。静寂。

暫くして、下手奥の真弓がゆつくり上半身だけ起き上がる。

真弓 やつぱり生き残ったのは麻希か。うわー結構エグい死に方してるね。

麻希 真弓…なんで？

真弓 意外と鈍い？私が仕組んだからに決まってんじゃない。

麻希 ……確かに皆真弓の事いいように使ってたけど何も殺す事…

真弓 あー、まあ、そう捉えるか麻希なら。

麻希 え？

真弓 ターゲットはあんた。

麻希 私？

真弓 ……とことん自分が悪いことしたとは思ってないんだね。本当に何も思い当たらない？

麻希、考えるが答えがでない

真弓 ある意味清々しいくらいのクズって感じ。……綾翔君不幸にしたじゃん。

麻希 それくらいの事で…

真弓

それくらいの事じゃないでしょ。私から綾翔君奪うだけじゃなくてさ、飽きたから捨てるってどういふこと。何、違うなあ。捨てられた綾翔君の気持ち考えたことある？
どれだけ苦しんだか知ってる。

真弓、奥下手側の椅子をソファアの近くまで持つて来る。

麻希

…殺すの？

真弓

え、私が麻希を？ないない。

麻希

じゃあ、

真弓

とりあえず座って。色々聞きたい事あるでしょ？ちゃんと答えるから。

真弓、椅子に座る。麻希、警戒しながらソファアに座る。

真弓

何から聞きたい？って、その前に。一つ訂正しておきたいんだけど、
実は私運転上手いから。

麻希

え？

真弓

前に綾翔君から誉められたことがあるんだ。私の運転なら安心して隣に座ってられるって。だから勘違いしないでね？皆を車酔いさせる為にあえて荒い運転したただけだから。

麻希

じゃあやつぱり睡眠薬は酔い止めの中に？

真弓

あ、でも一回目は長く寝てもらったから水にも入ってたよ。それで、

麻希

待って。

真弓

え？

麻希

この状況を作ったのが真弓なら、どこから嘘っていうか…計画だったの？

真弓

ねえ、知ってる？…この温泉の先に素敵なチャペルもあるんだよね！

麻希

チャペル？

真弓

去年のゴールデンウィーク綾翔君が忙しくてさ、何処も行けなかったんだよね。そしたら

来年はお前の好きな所に行こうって言うてくれて、このペンションに行きたいって答えたのね。あ、勿論チャペルの事もちゃんと話したよ？でも『いいよ』って。これって結婚を前提に付き合ってるって事じゃん？綾翔君も同じ気持ちなんだって思ったら嬉しくってさ…。

麻希

真弓、

真弓

私、ちっちゃい頃から早くお嫁さんになりたくて、でも資金的な事で…とか絶対嫌だったから高校の時からバイトして結婚資金貯めてたんだよね。でも今まで貯めてたお金、今回の計画で全部使っちゃった。だって必要無くなったんだもん。去年の夏、麻希に綾翔君盗られたからさ…。

麻希

それは…

真弓

あ、誤解しないでね？綾翔君には本当に幸せになつて欲しいから、相手が私じゃなくても

仕方ないって思ってる。ふざけんなって話だけどさ、でも仕方ないよね。

真弓、深呼吸を一回

真弓

分かった？つまり去年の年末くらいから計画してたって事。どこから嘘って、全部だよ全部。競馬がそんな都合良く当たるわけないじゃん。でも報告したら案の定誰かさんが「共有」とか言い出して旅行に行くことになったと。私が言い出して何かあったら真っ先に疑われるじゃん？こっぴどくするのはやりたいことを誰かに代弁してもらったのが一番だからさ。

麻希

じゃあ…ツアーも？

真弓

ツアーも。…あ、ちなみにこのペンション、三ヶ月借りてるから。

麻希

三ヶ月…

真弓

会社の新人研修って事にしてね。これが一番お金かったんだ。

――間

真弓

え、ここの質問するとこじゃない？どうしてそんなに長い期間って。

麻希

…どうしてそんなに長い期間？

真弓

それは後で分かるよ。ね、他に質問は？

麻希、思いつかない。

真弓

無いの！？質問してよ！！

麻希

：死んだふりしてた時って演技してたの？

真弓

綾翔君、私の仕事に対する姿勢も褒めてくれた事があって、真弓ってどんな小さな仕事でも真面目に一生懸命やるね」って。私、それが嬉しくて任された仕事完璧にこなしてたの。それで部署の人にも信用してもらってたし。

麻希

真弓、

真弓

でもそれも今回の計画でゼーんぶ。パアにしちゃった。薬の在庫グチャグチャにしたから。ゴールデンウィーク明けは数が合わなくてパニックだろうなあ。

麻希

：薬を使ったの？

真弓

麻酔と睡眠薬と弛緩剤。色々調合してね。

麻希

そんな危険なこと・・・

真弓

あ、大丈夫。ちゃんと事前に勉強してるから。

麻希

ネット？

真弓

ネットの情報なんてあてにならないでしょ。私は実践あるのみ。（麻希の反応を見て）

ま、そこは気にしないで。他の質問は？

麻希

…脈とか呼吸を確かめられたらどうするつもりだったの？

真弓

またまた！私達のグループはそんなじゃないじゃん。気持ち悪い」とか「面倒くさい」

って思う事はあっても「可哀想」とか思う事は絶対ないんだから。死体に触るとか無いって。

……で？

麻希、無言。

真弓

ねえ、質問は？……しーっもーんーはー！？

麻希、思いつかない。

真弓

……無いんだ、へー。

真弓、立ち上がる

麻希

何？

真弓

……何？

麻希

何で立ったの？

真弓

…別に？

麻希

座って。質問するから。

真弓、無言で座る

必死に質問を探す麻希

麻希

…敦子ちゃんは？敦子ちゃんはこの件にどうやって関わってるの？

真弓、満足そうな笑顔

真弓

麻希はさ、敦子ちゃんについてどういう印象持ってる？

麻希

目上の人でもハツキリ自分の主張が出来て、服装が派手で…。

真弓

違う違う、第一印象。

麻希

第一印象？

麻希、考えるが浮かばない

真弓

私は今でも覚えてるよ。髪型も洋服もお洒落感ゼロでさ、オドオドして周りの目を気にした、典型的な田舎者って感じ。

麻希

敦子ちゃんが？

真弓

探してたから。敦子ちゃんみたいなタイプ。……こんな計画を実行するには協力者が必要じゃない？まあでも敦子ちゃんには協力してる認識はなかったろうけどね。

――間

真弓

本当は指導係になるのが一番だったけど沙弥加さんとあんたになっちゃうし。ってかマジでちよいちよい邪魔なんだよね麻希って。……ま、いいけど。で、沙弥加さんから番号教えてもらって近付いたわけ。私達のグループに入らない？」って。

麻希

敦子ちゃんは？

真弓

喜んでたよ。「こんな風に変われる切っ掛けを待ってたんです」って。大学行くために田舎から出てきたんだけど、訛りがコンプレックスで誰ともしやべらず四年間過ごしたんだって。実際話してみると訛りなんか全然気にならないのにさ。自分で自分を縛り付けて損だよな。

――間

真弓
麻希

見えてきた？

え？

真弓、溜め息をついて立ち上がろうとする

麻希

待って！考えるから。

真弓、座り直す。麻希、しばらく考えて、

麻希

：…変わりたいと思ってた敦子ちゃんの願いを叶えた？

真弓

そう！まず教えてあげたのが、直美さんは怖そうに見えるけど結構下の人から意見してもらったのが好きな人なんだよって事。そしたら意見するネタ見つけようと細かいトコまで粗探ししちゃってさ、何か見付けては直美さんに話してたわけ。本人は好かれようと思っ
つてね。

麻希

そんなの、

真弓

逆効果って気付くよね普通。それから服装も同じ。女子が嫌う服装ナンバーの格好をコーディネートしてあげただけど、でもあの子私の事百パー信じてんの。

―間

真弓

どうしてそんな事をつて思ってる？自分は相手に好かれるために努力してるのにそれが全然実らないわけじゃん？頑張ってるのに認められない。となったらいつかブチギれるよね。…で、会社を辞める、と。……今回の計画の肝は涼子さんでさ、ストレスで蕁麻疹出してもらわないとイライラが貯まらないでしょ。その為にはリアルに命が狙われるかもしれない相手が必要なわけ。あれだけ社内で大声出して辞めた社員なんて後にも先にも敦子ちゃんくらいでしょ。記憶に残すには充分。

嘘ばかり教えたのに疑われなかったの？

麻希
真弓

麻希は人が見えてないね。敦子ちゃんみたいなタイプは自分の為にアドバイスしてくれてる人が悪い人だなんて思わないよ。むしろ、アドバイスしてくれてるのに上手いかわない自分が悪いんだって考えるの。だから私は一言言っただけ。私は敦子ちゃんの味方だよって…私の信用急上昇！…だから労基署連れてくのも簡単だった。え、その顔やっぱ気付いてなかった。あそこ超サービshintだったのに。

麻希

真弓

見たでしょ？敦子ちゃん 労基署の前でどうしてた？

麻希、考える

真弓

微妙な笑顔でダブルピースに

真弓、麻希に向かってダブルピース

麻希

撮影したのって……

真弓

……まあ自分の意思で動いてないんだから微妙な笑顔にもなるよね。……で、最後にもう一仕事してもらったわけ。

麻希

もう一仕事？

真弓

労基署の帰りにさ、敦子ちゃんの家に寄ったのね。一緒にご飯食べようって。家上がったらすんごい喜んでやって、誰かと一緒にご飯食べるの数年ぶりとか言うわけよ。料理は敦子ちゃんに任せて、私はお酒の用意をしたんだけど……その中に麻酔と睡眠薬と弛緩剤をね。

麻希

事前に勉強って……敦子ちゃんで実験したって事……

真弓

アルコールの効果も考慮しなきゃいけなかった調合が難しくてさ。

麻希

さっき敦子ちゃんに電話した時出なかったけど入院とか

真弓

出るわけないじゃん。

麻希

……殺したの？

真弓

悪くはないでしょ？涙流すほど喜びながら死ねたんだから。勿論死ぬ前にもう一仕事、

(テーブルの紙を拾い)これね。意識朦朧としてたけど、字はしっかりしてるよね。

真弓、メモを黙読。

麻希

…真弓。…これだけの事をしてにおいて私は殺さないってどうして？ここを三ヶ月借りてる事と関係あるの？

真弓、微笑み、静かに話し始める。

真弓

絢翔君って優しいよね。…麻希も知ってるでしょ？別れた後もあきらめられなくてさ、電話とかしちゃうんだけどいつもちゃんと出てくれるの。付き合ってた頃と同じ感じで。でもそれって残酷な優しさだよ。…いつその事迷惑だと言ってくれたら諦められるのに。

…それは無理か。私には絢翔君しか居ないもん。…ねえ、私がした事絢翔君が知ったら喜んでくれるかな？それは無いかな。…でもさ、もう後戻り出来ないし。

真弓、ポケットから麻希のスマホを取り出す。

麻希

それ、私の？

真弓、スマホを麻希の方へ投げる。ソファーに落ちたスマホを拾う麻希。

真弓

メールはもう作つてあるから。ここの住所と閉じ込められたから助けてくれつて。宛先は付近の警察署と新聞社。5、6件は入れたからどこかは来てくれるでしょ。

麻希、スマホの電源を入れようとする。

真弓

あ、電源入れるなら気を付けてね。もうほとんど充電無いから。余計な操作したら切れちゃうよ？

麻希、動きが止まる。

真弓

うん。これでやっと全部整った。

真弓、立ち上がる。

麻希

待つて！まだ質問するから！

真弓

質問はもういいよ。もう充分。

真弓、麻希にゆっくり近付く。

麻希、右手でナイフを取り構える。(左手はスマホを持ったまま)

麻希

それ以上近付かないで

真弓

あ、もう一つ教えておかなきゃ。

麻希

何

真弓、麻希の目の前まで来て右手を両手で掴む。

真弓、麻希、双方が手に力を込める。

真弓

大切な話だからちゃんと聞いてくれる？

麻希

離して

真弓

あのさ

真弓、ナイフを自分の腹部に刺す。

麻希

……え？

真弓

私の胃の中に金庫の鍵があるから。必要になったら探して。

麻希

鍵？

真弓

一ヶ月分の食糧が入ってる。少しずつ食べれば二ヶ月もつかもね。

麻希

何を…。

真弓

麻希ってさ、いつも何聞いても「分かんない」って答えるよね。考えるのが面倒くさいのか、何かを選択するのが恐いのか知らないけど。そんな麻希にこんな状況だからこそ質問したいんだよね。メール送って助けてもらおう？でも本文に「私が犯人です」って書いてあるから、助かっても捕まるだけじゃない？

麻希

真弓。…真弓。

真弓

大丈夫。鍵見付ける事ができたらタツプリ二ヶ月は悩んでられるから。

麻希

真弓！

真弓

5人を殺した殺人犯として社会的に死ぬ？それともこのままここで餓死する？ねえ、選べるもんなら選んでみなさいよ…

麻希、小さいうめき声が次第に大きく。

その声は悲鳴のようであり怒声のようでもある。

ナイフを持つ手に力が入り、深々と突き刺さる。

何度も大声でわめく麻希。

真弓、ゆっくり手を麻希の口元へ。

麻希、真弓の手により大声が出せなくなり、黙る。

真弓、大声を止めた手を果実を持つような手にして、自分の口元へ、麻希の見ている前でわざとらしくかじる。

真弓

……おいしい。

真弓、その場に崩れ落ちる。

—幕—